

# 第4回富山市文化財保存活用地域計画策定協議会

## 資 料

日 時 : 令和7年3月11日(火)午後2時から  
場 所 : Toyama Sakuraビル6階 研修室

## 目 次

【資料1】 富山市文化財保存活用地域計画策定事業スケジュール	1 ページ
【資料2】 富山市文化財保存活用地域計画策定事業 ワークショップ実施報告	2 ページ
【資料3】 富山市文化財保存活用地域計画構成	10 ページ
【資料4】 将来像について（第5章関連）	12 ページ
【資料5】 文化財の保存・活用に関する課題・方針（案）（第6～8章関連）	16 ページ
【資料6】 歴史的事象等のつながり（第3章関連）	19 ページ
【資料7】 歴史文化の特性について（第3章関連）	20 ページ
【資料8】 計画素案（序章・第1章）	21 ページ
【資料9】 指定等文化財の概要（第2章関連）	52 ページ
【資料10】 未指定文化財の件数（第2章関連）	54 ページ
【資料11】 既往の把握調査等（第4章関連）	55 ページ

## 富山市文化財保存活用地域計画策定事業スケジュール

(令和7年2月末現在)

事項		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
令和5年	事前把握	既存報告書調査			資料収集	未指定文化財データ抽出・整理								
		関連計画等調査			計画収集	関連データ抽出・整理								
	調査	指定文化財台帳整理・分布図					台帳修正・分布図作成等							
		未指定文化財台帳整理・分布図					台帳・分布図作成等							
		文化財所有者アンケート						アンケート案作成	アンケート送付準備	アンケート実施	集計・分析			
	調整・	文化庁		初回協議									現地視察	
	審議会	文化財調査審議会											意見聴取	
	協議会	協議会開催等		設置要綱・委員就任					①方針説明				②骨子確認	
	計画作成	計画本文作成					構成案作成	序章・第1章～2章執筆、課題洗い出し、方針措置・関連文化財群の検討					構成完成	
	説明	HP作成												HP作成・公開
事項		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
令和6年	事前把握	既存報告書追加調査			報告書追加収集、未指定文化財データ抽出・整理									
	調査	指定文化財台帳整理・分布図				台帳・分布図修正等								
		未指定文化財台帳整理・分布図				台帳・分布図修正等								
	調整・	文化庁										協議		
	審議会	文化財調査審議会											意見聴取	
	協議会								③中間報告				④中間報告	
	計画作成	計画本文作成		第3～8章（6～8章は課題・方針部分）執筆・方針の検討・関連文化財群の検討										
説明	HP作成	HP作成・公開												
	市民説明・意識調査					WS（ワークショップ準備）				WS実施				
事項		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
令和7年	調査	指定文化財台帳整理・分布図				台帳・分布図修正等								
		未指定文化財台帳整理・分布図				台帳・分布図修正等								
	調整・	文化庁				協議			協議				協議	
	審議会	文化財調査審議会											意見聴取	
	協議会					⑤内容確認・方針			⑥中間報告				⑦素案確認	
計画作成	計画本文作成		措置の検討・関連文化財群の検討 第6～10章（6～8章は措置部分）執筆・参考資料調整											
説明	HP作成	HP作成・公開												
事項		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
令和8年	調整・	関係部局等				教委定例会								
	審議会	文化財調査審議会			意見聴取								報告	
	協議会				⑨最終									
	計画作成						(案)完成							
	計画認定							文化庁修正	申請	認定				
	説明	HP作成	HP作成・公開											
		パブコム等		パブコム										
情報発信										パンフ・冊子印刷・配布・HP公開				

## 富山市文化財保存活用地域計画策定事業 ワークショップ実施報告

## 1 実施概要

[実施概要]

項目	内容
開催日時	① 令和6年12月8日(日)13:30~16:00 ② 令和6年12月22日(日)13:30~16:00
開催場所	ToyamaSakura ビル 5 階 大会議室
目的	・富山市は、7つの市町村が合併し広域な市域をもつことから、歴史文化資源を活かしたまちづくりの連携を図ることを目的に、本市の歴史や人びとのくらしと深くかかわりのある常願寺川・神通川をテーマとした、新たな歴史文化ストーリーの構築のほか、未指定文化財の発掘、市民の心の拠り所の発掘も含めたワークショップを開催する。 ・自分たちの行動につなげていく場づくりを行う。
参加対象	富山市の歴史に関心のある方、文化財の保存や活用に関心のある方
告知方法	・ホームページ掲載 ・広報紙(11月5日号) ・チラシ配布

## 2 実施結果

(1) 第1回 常願寺川・神通川にまつわる歴史文化ストーリーを考えよう「知る・学ぶ」

参加者:20名 …グループ分け:常願寺川9名/神通川11名

[当日のプログラム]

時刻	プログラム/内容
13:30~	1 開会の挨拶(生涯学習課 新本課長代理)
13:35~	2 富山市文化財保存活用地域計画の策定について(生涯学習課 尾島係長)
13:50~	3 富山市の川にまつわる歴史文化(郷土博物館 坂森館長)
14:45~	4 グループワーク(ファシリテーター:トークグラフィッカー®山口翔太氏) ・ディスカッション 常願寺川・神通川流域の歴史文化・文化財、おすすめスポット、大切にしているものなど
15:45~	5 閉会の挨拶(生涯学習課 新本課長代理)

[当日の風景]



会場の様子(坂森館長講演)



会場の様子(グループワーク)

[3 富山市の川にまつわる歴史文化(郷土博物館 坂森館長)]

令和6年度 富山市文化財保存活用地域計画策定のためのワークショップ  
 常願寺川・神通川にまつわる歴史文化ストーリーを考えよう 第1回：知る・学ぶ 2024.12.08

●講演「富山市の川にまつわる歴史文化」 (・神通川…(神) ・常願寺川…(常))

●はじめに-富山市の川  
 富山市郷土博物館 館長 坂森 幹浩さん  
 川⇒水  
 江戸時代初めごろまでの富山市の川 現在のような定まった流路がなかった  
 常願寺川 111.5km 神通川

●神通川と常願寺川  
 流域 2,720km<sup>2</sup> 流路 120km  
 水源:川上岳 流量も県内最大

●水害  
 流域 368.1km<sup>2</sup> 流路 56km  
 水源:北ノ保岳  
 常願寺川は流量量は神通川と比べると少ない

●川が与えてきたもの-その1(災い)  
 明治43年の洪水  
 旧流路 なせ? 天正8年以降 高山町で80回以上  
 河川改修 流路変更と河口の付け替え 多くの改修で災害がまず起こらない川に

●水産資源  
 魚・魚・魚が代表的  
 明治45年、宮内省が3ヶ所を御旗場に指定  
 魚鱒ずし 下流の水量が少なく、水生生物が生息することが難しい

●物流  
 舟運 木町の峡 富山→東岩瀬  
 おわりに 水害の克服 利水 川の水にまつる信仰 災いには福を為す 舟

●電力 日本の電源地帯  
 大久保発電所 北陸初の送電開始 蟹ヶ碓発電所 松ノ木発電所 有峰ダム

●飲料水  
 扇状地の湧水帯 富山市の水道水 主要水源:常願寺川水系

●農業用水  
 牛の首用水 常西合口水 世界が誇る施設遺産 全国で初となる大規模な合水

●交通の障害  
 有沢渡し 蟹ヶ碓渡し 舟橋 舟渡し

作成：トークグラフィッカー®山口翔太 (以下の絵もすべて山口氏によるもの)

[4 グループワークで出された歴史文化、文化財等]

令和6年度 富山市文化財保存活用地域計画策定のためのワークショップ  
 常願寺川・神通川にまつわる歴史文化ストーリーを考えよう 第1回：知る・学ぶ 2024.12.08

A班・神通川  
 ・地球の発展  
 ・毒業と川の関係  
 ・街中の中小河川と生活のつながり  
 ・舟大工  
 ・1911年  
 ・飛騨馬場街道  
 ・上流地域とのつながり  
 ・今和6年の能登半島地震と神通川の関係  
 ・松川西宮角の桜  
 ・花火  
 ・シオパーク 神通峡・鷹谷峠の地層  
 ・川魚  
 ・田んぼ

B班・神通川  
 ・犬島 草島 牛島 蔵島 中島 島尻 添島 秋ヶ島 栗島  
 ・豊田遺跡・竹島家  
 ・猿倉城 城生城  
 ・妍倉比売神社 久比禮神社  
 ・鶴坂神社  
 ・富岩運河 魚急温泉  
 ・八尾の和紙  
 ・長橋金山  
 ・婦負川・吳羽山  
 ・古川  
 ・与茂太郎川  
 ・中神通中洲

C班・常願寺川  
 ・寛政5年の鎌倉山氾濫  
 ・天井川  
 ・石砂防塔  
 ・災害の克服  
 ・用水と生活  
 ・常西合口水  
 ・太田関門  
 ・佐々堤 扇状地  
 ・立山登山  
 ・シオパークの川の疏水  
 ・水質 美味しい水  
 ・湧き水  
 ・大泉  
 ・小泉  
 ・石倉町

D班・常願寺川  
 ・大洪水の経験  
 ・お地蔵が夕夕い  
 ・石倉と左岸で同名の村がある  
 ・大乾石  
 ・令和6年 能登半島地震の液状化  
 ・佐々堤 (佐々成政)  
 ・有峰湖  
 ・石倉町の延命地蔵の祠  
 ・的場の泉(富山市太田)  
 ・民謡 舟田荷子  
 ・草競馬  
 ・舟橋の歴史  
 ・常西用水  
 ・横江の頭工  
 ・本宮えん堤  
 ・白岩えん堤  
 ・発電設備

## (2) 第2回 常願寺川・神通川にまつわる歴史文化ストーリーを考えよう「つながる」

参加者:15名 …グループ分け:常願寺川7名/神通川8名

[当日のプログラム]

時刻	プログラム/内容
13:30~	<b>1 第2回の内容と目的について(生涯学習課 尾島係長)</b>
13:45~	<b>2 グループワーク</b> ・歴史文化のつながりを探そう ・保存・活用のアイデアを考えよう
15:15~	<b>3 発表</b>
15:45~	<b>4 閉会の挨拶(生涯学習課新本氏)</b>

[当日の風景]



会場の様子(グループワーク)



会場の様子(グループワーク)



会場の様子(グループワーク)



会場の様子(グループワーク)

### 3 実施結果

#### ①参加者からあげられた流域の「歴史文化・文化財」

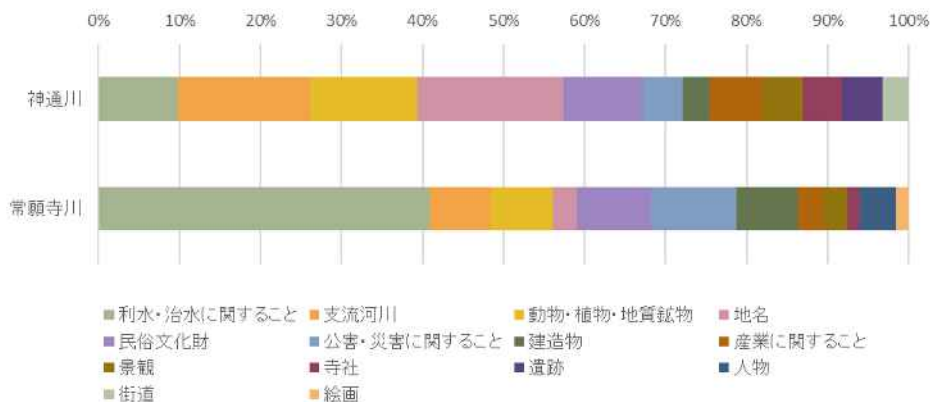
・参加者より、神通川 61 件、常願寺川 66 件、計 127 件（重複あり）の「歴史文化・文化財」があげられ、それらを整理すると、利水・治水に関するものが全体の 26.0%で 33 件、次に支流河川が 11.8%で 15 件、動物・植物・地質鉱物、地名がそれぞれ 10.2%で 13 件、民俗文化財が 9.2%で 12 件あげられており、神通川、常願寺川の恵みに育まれた歴史文化・文化財に親しみを持っていることがうかがえます。

・神通川流域では、合計 61 件の「歴史文化・文化財」があげられ、内訳は、犬島、草島など島がつく地名や廃村した桜谷村など地名に関するものが 11 件、いたち川や熊野川など支流河川が 10 件、川魚や地層、鯉温泉など動物・植物・地質鉱物に関係するものが 8 件、水かけ地蔵やささ舟など民俗文化財が 6 件、富岩運河、牛ヶ首用水など利水・治水に関するものが 6 件、葉業や八尾の和紙など産業に関わることが 4 件、松川遊覧船と桜、呉羽山など景観に関するものが 3 件、姉倉比売神社など神社が 3 件、猿倉城など遺跡が 3 件、イタイイタイ病など公害・災害に関するものが 3 件、竹島家など建造物が 2 件、旧飛騨街道など街道に関するものが 2 件となっています。

・常願寺川流域では、合計 66 件の「歴史文化・文化財」があげられ、内訳は、佐々堤や常西用水など利水・治水に関するものが 27 件、安政 5 年の氾濫など公害・災害に関するものが 7 件、延命地蔵や利田荷方など民俗文化財が 6 件、いたち川や婦負川など支流河川が 5 件、浮田家など建造物が 5 件、ざら峠など動物・植物・地質鉱物が 5 件、佐々成政など人物が 3 件、引越村など地名に関するものが 2 件、産業に関するものが 2 件、立山など景観が 2 件、寺社仏閣が 1 件、絵馬など絵画が 1 件となっています。

#### [あげられた流域の「歴史文化・文化財」の概要]

歴史文化・文化財	神通川流域	常願寺川流域	合計
利水・治水に関すること	6	27	33
支流河川	10	5	15
動物・植物・地質鉱物	8	5	13
地名	11	2	13
民俗文化財	6	6	12
公害・災害に関すること	3	7	10
建造物	2	5	7
産業に関すること	4	2	6
景観	3	2	5
寺社	3	1	4
遺跡	3	0	3
人物	0	3	3
街道	2	0	2
絵画	0	1	1



②参加者が発表した歴史文化のつながりと保存・活用のアイデアに関する意見

令和6年度 富山市文化財保存活用地域計画策定のためのワークショップ  
 常願寺川・神通川にまつわる歴史文化ストーリーを考えよう 第2回：つながる 2024.12.22

**A班・神通川** 『神通川が結ぶ人と大地の歴史  
 ～川に3台、たぬき街道がつなぐ人・モノ・文化の移動～』

神通川 (人) 大地の歴史 飛騨街道 移動 (人) (モノ) (文化)

〈関係する歴史文化・文化財〉

- 産業: 売薬・発電・川魚
- 輸送: めごの渡し・笠舟
- 地名: 津がたつ
- 大地: ジオパーク・土層

〈保存・活用のアイデア〉

- 富山市の文化遺産としての制度
- 発信: SNS、インターネット
- ガイドツアー
- 飛騨街道サミット
- 観光: さっかけ、教育、総合学習
- 記録の作成

**B班・神通川** 『新発見!! 富山の答えは「島」にある』

「島」がつく地名 → 未来につなげる (文化) (防災)

〈関係する歴史文化・文化財〉

- 島がつく地名: 蔵島、添島、栗島、薄島、草島、犬島、秋ヶ島、青島、宮ヶ島、中島、午島、福島
- 神通川: 谷間に3つあり
- 島とつく場所は、水が流さない? 重要な都市施設も立地

〈保存・活用のアイデア〉

- 島サミット: 地域の文化・伝承を集める
- 観光: 地域の文化を新たに発見、観光、新観光ルート + カフェ、スポーツ、文化財の要素
- デジタル化: SNS映える仕掛け、VR体験、ゲーム性

令和6年度 富山市文化財保存活用地域計画策定のためのワークショップ  
 常願寺川・神通川にまつわる歴史文化ストーリーを考えよう 第2回：つながる 2024.12.22

**C班・常願寺川** 『上流を治めなければ止まらない 暴れんぼ常願寺川』

治水 (人) 暴れんぼ常願寺川 まちがえる土木工事 (人) (モノ) (文化)

〈関係する歴史文化・文化財〉

- 佐々堤
- 常西用水
- デレーク
- 電源開発
- おき水
- 殿様林
- かすみ堤
- 有山薬師

〈保存・活用のアイデア〉

- ツアーをつくる
- 魅力的に
- 「ログインク」
- スポーツレクリエーション
- 治水の歴史のPR
- 見せ伝える
- 上流と下流の交流会

**D班・常願寺川** 『急流荒廃河川常願寺川がうみだした治水・利水の歴史が学ぶ』

常願寺川 急流荒廃河川 治水・利水 (災害) (文化) (歴史)

〈関係する歴史文化・文化財〉

- 上流の賑わい
- えん堤
- 左岸と右岸のつながり
- 橋の歴史
- 天井川
- 引越村

〈保存・活用のアイデア〉

- パンフレット
- 総合学習
- 体験使ってまとめる
- 研究会をつくる
- 過去に学ぶ
- 勉強・発信
- 地球の博物館
- 子どもたちに届ける

・保存・活用のアイデアについて、市民が歴史文化・文化財に触れるきっかけを作ることや、子どもたちへの教育の機会、歴史文化・文化財と観光をつなげた企画などを重要視する意見がありました。

[あげられた意見の詳細]

No.	参加者からあげられた意見
1	文化財を知ってもらうフェスティバルをする
2	インターネット、SNS 発信
3	発信の方法を検討する
4	地元自慢を紹介する
5	富山市の文化遺産といった制度をつくる
6	飛騨街道サミットを実施する
7	歴史に関する観光ガイドツアー
8	子どもたちへの教育(総合学習などきっかけをつくる)
9	体験や活動を実施して、歴史文化・文化財に触れる
10	歴史文化・文化財を教える人を育成する
11	古老から話を聞いて、記録を作成する
12	島サミットを開催する(地名に島のつく地域の長老とワークショップ、地域の文化財発見など)
13	新しい観光ルートを開発する
14	デジタル化
15	キャラクターをつくる
16	SNS 映えする仕掛けをする
17	ゲーム性を用いた企画(文化と防災を結び付ける)
18	トロッコで治水の歴史を見せPRする
19	観光ツールとして、ロゲイニング・スポーツレクリエーションを用いる
20	上流と下流の交流会を開催する
21	絵をつかってまとめる
22	研究会をつくり、勉強、発信する(過去に学ぶ)
23	地域の博物館で子どもにパンフレットを渡す

#### 4 参加者アンケート結果（回答者数…15）

問1 当ワークショップに参加した理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

項目	件数	割合
1. 富山市の文化財の保存や活用に関わる取組を既に行っているから	4	26.7%
2. 富山市の文化財や歴史文化に興味があるから	10	66.7%
3. 歴史が好きだから	4	26.7%
4. 友人・知人からの紹介	1	6.7%
5. その他	0	0.0%

問2 当集いをどのようにお知りになりましたか。（あてはまるものすべてに○）

項目	件数	割合
1. 富山市広報	6	40.0%
2. 富山市ホームページ	0	0.0%
3. チラシ	5	33.3%
4. 友人・知人からの紹介	3	20.0%
5. その他	1	6.7%

<その他> ・富山のくすり 大坂道修町の歴史講座より

<チラシ入手先> ・富山市民俗民芸村講演会 ・坂森先生の売薬版画の講座 ・市観光協会

問3 当ワークショップの回数等の程度はどうか。（あてはまるものすべてに○）

項目	件数	割合
1. 全2回は参加しやすい	10	66.7%
2. 回数はもっと多いとよい	4	26.7%
3. 回数は1回でよい	1	6.7%
4. 時間はちょうどよかった	4	26.7%
5. 時間は長かった	0	0.0%
6. 時間は短かった	0	0.0%

<希望回数> ・3回 ・5～6回 ・月1回

問4 当ワークショップの内容に関して教えてください

(1)常願寺川や神通川に関係する歴史文化や文化財への理解が深まりましたか。（ひとつに○）

項目	件数	割合
1. 理解が深まった	13	86.7%
2. 特に変わらない	1	6.7%
3. わからない	0	0.0%
4. その他	1	6.7%

<その他> ・理解がやや深まった

(2)富山市にある歴史文化や文化財への関心が高まりましたか(ひとつに○)

項目	件数	割合
1. 関心が高まった	14	93.3%
2. 特に変わらない	1	6.7%
3. わからない	0	0.0%
4. その他	0	0.0%

問5 あなたは今後どのような形で文化財の保存・活用に携わりたいですか。(あてはまるものすべてに○)

項目	件数	割合
1. イベントや祭りへの参加	5	33.3%
2. 地域の史跡や文化財関連施設・博物館施設などでのガイドボランティア活動	7	46.7%
3. 文化財を守るためのボランティア活動(清掃(草刈りやゴミ拾いなど)など)	1	6.7%
4. 伝統芸能・技術などの継承(祭りや舞踊の担い手などとして)	0	0.0%
5. インターネット(歴史や文化に関するホームページなど)での情報発信	1	6.7%
6. SNS(LINE、Facebook、Instagram、X など)での情報発信	2	13.3%
7. 定期的な文化財の現状確認	4	26.7%
8. 写真や映像などでの記録	4	26.7%
9. 保存・活用のための寄付	0	0.0%
10. 地域に眠る資料の調査や収集、整理	6	40.0%
11. 講座などの受講	9	60.0%
12. その他	0	0.0%
13. 特に関わりたくない	0	0.0%

問6 富山市の歴史文化や文化財を大切に活用しながら守り、将来に伝えていくための取組の夢やアイデア、文化財の保存・活用に関してご意見、当ワークショップのご感想があれば、ご自由にご記入ください。

○歴史文化や文化財を大切に使いながら守り、将来に伝えていくための取組の夢やアイデア

- ・旧飛騨街道の復元活動をしています。一度歩いてみて、文化財的価値があるかと見て下さい。
- ・可能なら小学生、中学生、高校生と共にワークショップができれば未来につながるのかな…と思いました。富山は発信のしかたがヘタだと思います。金岡邸などは全国に誇れる文化財だと思います。
- ・小中学校に 1 学期間、集中的に出張教室できれば現地観察、活動を含めた啓発講座を行えば良いと思います。
- ・官民の協力体制の構築が重要
- ・文化財を未来に伝える知恵としてみると、役に立つ情報の宝箱と思います。

○ワークショップについてのご意見

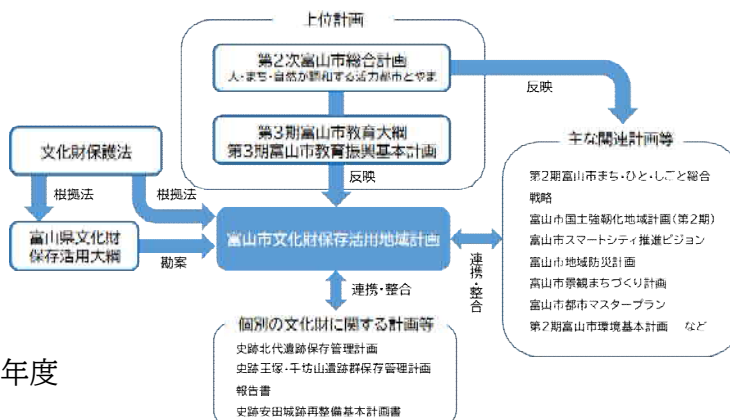
- ・大変文化財を考えるうえで、興味深い体験でした。いろいろな方々の意見を聞くことができて参考 になりました。
- ・富山にこんなに熱い思いのある人が居る事に感心しました。
- ・楽しくコミュニケーションがとれて良かったです。神通川も常願寺川も富山の発展の基となったという事を深く感じる事が出来ました。

以上

## 富山市文化財保存活用地域計画構成

## 序章…資料8

- 1 作成の背景と目的
- 2 本計画の位置づけ
  - (1) 富山県の関連計画
  - (2) 富山市の上位計画
  - (3) 富山市の関連計画
  - (4) 個別の文化財に関する計画
  - (5) 本計画とSDGsとの関係
- 3 計画期間 令和9年度～令和15年度
- 4 本計画の対象となる文化財
- 5 本計画作成の体制と経緯
  - (1) 作成体制
  - (2) 作成までの経緯



## 第1章 富山市の概要…資料8

・本市の歴史文化の特性のバックグラウンドとなる情報を記載

- 1 自然的・地理的環境
  - (1) 位置・面積
  - (2) 地勢 ①地形 ②地質
  - (3) 気候
  - (4) 植生
- 2 社会的状況
  - (1) 市域の変遷
  - (2) 人口推移・世帯数推移
  - (3) 交通機関
  - (4) 土地利用・自然的景観
  - (5) 産業 ①製造業 ②農業・漁業 ③観光
  - (6) 文化関連施設 ①博物館等施設 ②図書館・公文書館等 ③文化財施設
- 3 歴史的背景
  - (1) 旧石器・縄文時代
  - (2) 弥生・古墳時代
  - (3) 古代（奈良・平安時代）
  - (4) 中世
  - (5) 近世
  - (6) 近現代

## 第2章 富山市の文化財の概要

- 1 指定等文化財の概要・特徴…資料9

(1) 類型別件数

(2) 地域別件数

2 未指定文化財の概要・特徴…資料 10 本計画策定事業中の調査結果を反映

3 文化財の類型ごとの概要

4 関連する制度

日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」

### 第3章 富山市の歴史文化の特性

・第1章・第2章をふまえ、富山市固有の歴史文化の特性を記載…資料6, 7

### 第4章 文化財に関する既往の把握調査

・これまでに本市内を対象とした国・県・市等が実施した把握調査を整理・記載…資料11

・把握調査が未実施の文化財類型や地区などを記載

### 第5章 文化財の保存・活用に関する目標（将来像）…資料4

1 文化財の保存・活用に関する目標（将来像）

2 将来像を実現するための方向性

方向性案 ①歴史を辿り、守りつなぐ文化財

②歴史を紡ぎ、今を彩る文化財

③共につなぐ文化財

### 第6～8章（程度） 文化財の保存・活用に関する課題・方針・措置…資料5

#### 方向性ごとに章を分け、それぞれ課題・方針・措置を掲載

1 方向性実現のための課題

前章で記した将来像を実現する上での課題を、関連計画や第4章の既往の把握調査の不足箇所、アンケート等の結果などを参考にして記載

2 方向性実現のための方針

1で挙げられた課題に対する方針を記載

3 方向性実現のための措置

2の方針を踏まえ、具体的な措置を記載、実施時期や実施主体なども明記

### 第9章 関連文化財群

1 関連文化財群の設定

2 関連文化財群の保存・活用に関する課題・方針

3 関連文化財群の保存・活用に関する措置

### 第10章 文化財の保存・活用の推進体制

・文化財担当部局や関係部局、博物館等関係機関の職員・専門的人材の配置状況

・富山市文化財調査審議会の構成

・民間団体等

### 別添資料

・文化財リスト

・文化財所有者アンケート結果等

## 将来像について（第5章関連）

### ① 文化財の保存・活用に関する将来像

#### ア) 各種調査における文化財に対する認識

##### ○令和5年度市民意識調査

施策名	満足+やや満足の割合 ※（ ）内は52施策内の 順位	不満+やや不満の割合 ※（ ）内は52施策内の 順位
伝統的文化・文化遺産の保全・活用	14.0% (23位)	12.1% (50位)
生涯学習の充実	21.1% (6位)	18.0% (37位)
地域・自治体としてのブランディングとシティプロモーション	8.0% (32位)	27.0% (11位)
シビックプライドの醸成	6.7% (40位)	23.7% (21位)
観光資源の創出・発信と受入体制の整備	9.0% (29位)	28.4% (8位)

表 歴史文化・文化財に関係する総合計画施策の満足度  
（「令和5年度市民意識調査」をもとに作成）

- ・伝統的文化・文化遺産の保全・活用

…「満足」「ほぼ満足」の割合は高くなく、「不満」「やや不満」の割合は低い。

→伝統的文化・文化遺産に対する関心の低いことが要因の一つか。

- ・地域・自治体としてのブランディングとシティプロモーション

- ・シビックプライドの醸成

…本市の魅力発信や地域への愛着とかかわる施策。住んでいる地域に対する親しみや愛着は定住を支える大きな要因となる。

- ・観光資源の創出・発信と受入体制の整備

…地域の歴史や文化、豊かな自然環境などの地域資源を観光資源として活用・発信する施策。

⇒本市の歴史文化や文化財といった地域資源の掘り起こしや魅力発信は、文化財等への市民の関心を高めるとともに、シビックプライド醸成や観光資源創出等にも有効。

## ○指定等文化財所有者アンケート（令和5年度実施）

調査対象：市内の指定・登録文化財所有者（管理責任者）

※アンケートの結果は第2回協議会で配付

・文化財の保存・活用に関する課題…「とくに困っていない」という回答が一番多かった一方で、「維持管理や修繕にかかる費用負担が大きい」と答えた人も多く、特に建造物や有形民俗文化財、史跡での割合が高くなっている。そのほか、「後継者がいないという問題を抱えている」、「防災・防犯対策の負担が大きい」「行政等の支援情報が不足している」といった課題が続いた。

・今後の活用について…「積極的に活用していきたい」という回答が25.6%、特定期間や申込があったときなど限定的な活用については25.5%と半数あまりの人が活用を考えている。主な理由は「文化財の価値を地域住民に知ってほしいから」「富山市の歴史や文化を市内外の人たちに知ってほしいから」。

⇒情報発信の必要性を感じている人が多い。

一方で、「積極的な活用はしたくない」「活用は考えていない」（37.8%）の理由として多かったのが「来訪者への対応ができる整備がないから」「文化財の所在地が広く知られることで、盗難やいたずらの恐れがあるから」。

⇒整備の不十分さが活用困難の要因となっている。

## ○富山市文化財保存活用地域計画策定のためのワークショップ（令和6年度）

「常願寺川・神通川にまつわる歴史文化ストーリーを考えよう」

※詳細は資料2参照

本市文化財の保存・活用の今後の取り組みについて、ワークショップおよび開催後のアンケートからは次のような課題やアイデアが出された。

### 文化財保存・活用に関する課題やアイデアについて（要約）

- ・デジタル技術を使った情報発信
- ・文化財を活用した新しい観光ルートやガイドツアー、スポーツレクリエーション
- ・学校との連携などにより、子どもたちに文化財の魅力を伝える
- ・官民協力体制の構築
- ・各地域の交流
- ・各地域の文化・伝承を集め、記録する

⇒魅力発信、次世代への継承、協力体制の構築、各地域の交流などが求められている。

## イ) 関連計画にみる歴史文化・文化財に関する課題（素案序章第2節も参照）

### ○第2次富山市総合計画

#### 【まちづくりの目標】

#### Ⅲ 人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】

##### 政策4 歴史・文化・芸術のまちづくり

富山の文化的アイデンティティー（富山らしさ）を再確認し、次の世代に伝える魅力ある文化を創造するため、伝統的文化・文化遺産の保全・活用のほか、質の高い芸術文化の発信、市民の芸術文化活動への支援を行います。

##### 【主要施策】

施策(1) 伝統的文化・文化遺産の保全・活用

施策(2) 質の高い芸術文化の発信

施策(3) 市民の芸術文化活動への支援

（第2次富山市総合計画基本構想より抜粋、下線追記）

⇒「伝統的文化・文化遺産の保全・活用」は「富山の文化的アイデンティティー（富山らしさ）」と密接に関係する施策

### ○第3期富山市教育振興基本計画

- ・文化財に関する課題…文化財の総合的把握と次世代への継承、指定文化財建造物の保存・修理、岩瀬地区北前船廻船問屋建造物の一体的な活用整備や史跡整備の必要。
- ・人文系博物館に関する課題…魅力ある展示により、本市の歴史・民俗・美術の学習機会の提供が求められている。また、より質の高いものとするため、博物館の連携や市民との協働が必要とされている。

## ウ) 将来像とそこに込められた思い

### ○ア)、イ)をふまえて言えること

- ・本市の歴史文化や文化財を発掘し、その魅力（＝「富山らしさ」）を発信することは、シビックプライドの醸成や観光資源創出にも有効。  
※本市の歴史文化の特性を示すことは「富山らしさ」の提示にもなる。そのため、「富山らしさ」を示すには、各地域の歴史文化や文化財を総合的にとらえる必要がある。
- ・本市の歴史文化を発信する場でもある博物館の連携や市民との協働が必要。
- ・文化財が次世代に継承される体制を整えることが求められている。

### 将来像（案）

- ・歴史文化がつなぐ誇りある富山
- ・歴史文化をつないで育む「富山らしさ」
- ・歴史文化で地域がつながり、誇りある富山を未来へつなげる
- ・守り、活かし、共につなぐ富山の歴史文化

【前回の富山市文化財保存活用地域計画策定協議会での案】

- ① 歴史文化で富山がつながり、文化財を未来につなげる
- ② 住み続けたい歴史文化のある暮らし
- ③ 未来につなぐ富山市の歴史文化
- ④ 歴史文化がつながるわたしたちのまち
- ⑤ 市民が育みつなげる、歴史文化のまち富山
- ⑥ 歴史文化でつなぐ市民の誇り
- ⑦ 文化財で創造する豊かなまち富山
- ⑧ 文化財でつなぐ幸せ日本一とやま
- ⑨ 文化財でつなぐ活力都市とやま
- ⑩ 文化財の恵みで躍動するまち富山

## 《将来像への想い》

✓「つながる・つなぐ・つなげる」をキーワードとする。

✓富山市は市域が広く、各地域魅力ある歴史文化と文化財をもつが、それらにはそれぞれ「つながり」があり「富山らしさ」をつくっていること、そして今のわたしたちのくらしにも「つながっている」ことを市民が共有することで、シビックプライドを醸成し、さらには文化財と文化財を大切にする気持ちを未来に「つなげて」いきたい。

## ② 将来像を実現するための方向性

この将来像を実現するために、以下の3つの方向性に分け、文化財の保存・活用のための課題・方針・措置を次章以降に示します。

### 方向性1 歴史を辿り、守りつなぐ文化財

本市の歴史や文化財に関する調査を通じて文化財の歴史的価値を把握するとともに、文化財を適正に保存・管理をし、次世代へとつなげる

### 方向性2 歴史を紡ぎ、今を彩る文化財

文化財を活用し、本市の歴史文化や文化財の魅力を普及発信する

### 方向性3 共につなぐ文化財

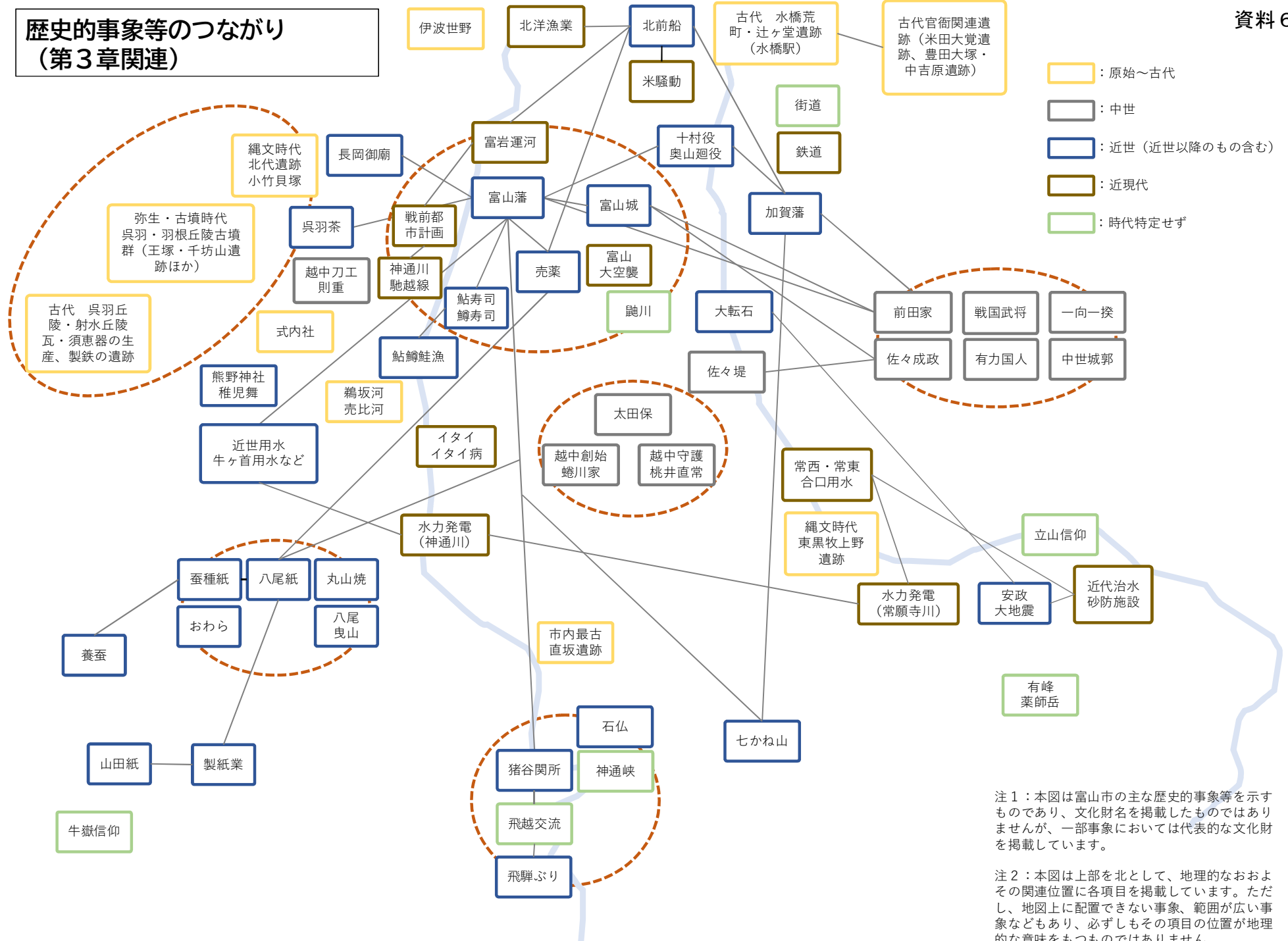
市民とともに歴史文化を共有し、連携体制を整え、みんなで文化財を支える



将来像 (案)	方向性	課題	課題(詳細)				各計画等での方針・方向性 (▲総合計画□教育振興計画◎県大綱)	方針	
			関連計画 (▲市総合計画□市教育振興計画◎県大綱)	文化財所有者意見 (アンケート)	協議会・審議会	市民意見 (ワークショップ)			
<p>検討中 ポキーンワード…歴史文化・文化財で、各々が「つながる」</p> <p>「富山らしい歴史文化を共有し、シビックプライドを醸成し文化財を未来へ「つなげる」</p>	<p>II “歴史を紡ぎ、今を彩る文化財” 文化財を活用し、本市の歴史文化や文化財の魅力を普及発信する</p>	<p>①文化財の活用に関する課題 ①-1文化財の活用を進める必要がある。 ①-2積極的な活用を推進する、効果的な整備が必要である。</p>	<p>▲岩瀬地区の町並みなど、その地域ならではの歴史や伝統文化を物語る貴重な資源を活用し、まちの活性化につなげていくことが求められる。 □岩瀬地区では、旧森家住宅や旧馬場家住宅をはじめとする北前船廻船問屋建造物の、一体的な活用・整備を図っていく必要がある。</p>	<p>活用していきたい意向があるが、現在活用していない所有者が一定数いる。</p>			<p>▲(再掲)地域の活性化を図るために、岩瀬地区などの歴史的な景観を形成している伝統的な建造物群を、文化財として保全・活用</p>	<p>①-1 市管理文化財の公開等活用の推進 ①-2 文化財の美化推進 ①-2 歴史的景観の保全 ①-2 文化財所有者への情報提供等、所有者と連携した活用の推進</p>	
			<p>◎建造物について、次世代に確実に継承していくための積極的な公開・活用を推進する必要がある。</p>	<p>来訪者への対応ができる整備がないため、活用を考えていない所有者が多い。</p>			<p>◎(再掲)指定文化財等の保存修理・整備の推進 ◎観光資源としての魅力の向上</p>		
			<p>◎史跡について、地域住民が史跡の存在や意義を再認識し、適切な保存管理のもと積極的な活用を図るために、適切で効果的な整備、活用手法を検討していく必要がある。</p>						
		<p>②博物館活動に関する課題 博物館の展示・普及活動の充実、機能強化、魅力向上が必要である。</p>	<p>□郷土博物館をはじめとする人文系博物館は、魅力ある展示により、本市の歴史・民俗・美術の学習機会の提供が求められている</p>		<p>文化財の価値を伝えるには展示施設が必要。</p>			<p>□人文系博物館の展示・普及活動の充実</p>	<p>②博物館の展示の充実 ②博物館での体験活動・普及活動の充実 ②博物館連携や施設の整備等機能強化の推進 ②博物館資料の保存収集</p>
			<p>□郷土博物館について、城址公園の整備とともに、展示リニューアルの検討、インバウンド観光客向けの多言語対応など、郷土博物館の機能強化とより一層の魅力向上が必要。</p>						
			<p>□民俗民芸村について、施設の老朽化が著しい館があることから、修繕や長寿命化を適時進めていく必要がある。 □科学博物館について、魅力的な特別展や企画展の開催が求められている。</p>				<p>□科学博物館の展示・普及活動の充実</p>		
		<p>③観光産業に関する課題 観光資源としての魅力創造が必要である。</p>	<p>◎観光資源など地域づくりの核として文化財の活用を図るために、その価値や魅力を再発見・再認識する取組みを一層充実させる必要がある。</p>		<p>文化財施設にどうしたら人を呼び込めるか考える必要がある。</p>			<p>◎(再掲)観光資源としての魅力の向上</p>	<p>③観光資源としての文化財の魅力向上と発信</p>
			<p>▲自然・文化・歴史関係の観光資源が点在するが、新たな観光資源の掘り起こしや既存の観光資源のブラッシュアップにより、多様な観光需要に対する受け入れ体制を整備し、富山型観光産業の育成が求められる。</p>				<p>▲地域資源の活用による新たな観光資源の創出 ▲多様化する観光客への観光情報発信と受入体制の充実 ▲富山ブランドの確立・推進</p>		
		<p>④情報発信に関する課題 ④-1さらなる情報発信が必要である。 ④-2効果的な情報発信の整備が必要である。</p>	<p>◎優れたふるさとの文化財の価値や魅力が十分に認識されていない状況にある。富山売薬、北前船交易などに関わる史料や文化的所産についても、文化財としての保護や情報発信が不十分である。</p>	<p>文化財は観光資源でもあり、周知が必要。</p>	<p>指定文化財の価値がわからなくなっていることもあり、「大切である」と啓蒙する必要がある。市広報紙などで文化財紹介するのはどうか。</p>	<p>富山の文化財をもっと発信したほうがよい。</p>		<p>◎文化財の情報発信の強化</p>	<p>④-1 文化財の情報発信の強化 ④-2 デジタル技術等を活用した情報発信の整備</p>
			<p>◎市民や国内外、とりわけ外国人旅行者の観光インバウンドに資する観光資源としての魅力向上や、効果的な情報発信を行うための取組みは不十分な状況にある。 こうしたことから、文化財の価値や魅力をわかりやすく伝えるための先端技術等を活用した文化財の公開活用や情報発信、文化財の美観向上などの観光資源としての質・魅力の工場の取組みなどを促進する必要がある。</p>		<p>城下町であることを観光なども含め活かしてほしい。10万石の城下町、神通川が見えてこないため、家老の屋敷や薬業について富山らしさとしてあった方がよいと考える。</p>	<p>デジタル技術をつかった情報発信や文化財魅力発信が必要</p>			

将来像 (案)	方向性	課題	課題(詳細)				各計画等での方針・方向性 (▲総合計画□教育振興計 画◎県大綱)	方針	
			関連計画 (▲市総合計画□市教育振興計画◎県 大綱)	文化財所有者意見 (アンケート)	協議会・審議会	市民意見 (ワークショップ)			
<p>ポキ検討 インタビュー…歴史文化・文化財で、「つながる」各々が「つながる」</p> <p>富山らしい歴史文化を共有—シビックプライドを醸成—文化財を未来へ「つなげる」</p>	<p>Ⅲ “共につなぐ文化財”</p> <p>市民とともに歴史文化を共有し、連携体制を整え、みんなで文化財を支える</p>	<p>①市民への意識醸成・魅力創造に関する課題</p> <p>①-1 学校教育との連携が必要である。</p> <p>①-2 生涯学習に場での学習機会の提供や文化財の保存活用に関する情報提供など、市民への発信が必要である。</p>	<p>◎埋蔵文化財について、積極的な公開活用を進め、身近な郷土学習の素材として学校教育や生涯学習の場で一層の活用を図ることが必要である。</p>	<p>学校教育での活用が必要。</p>	<p>小学生や中学生に文化財の価値を伝えて、後継者を養成できればよい。地元で素晴らしいものがあるということ、小さい頃から教えられたい。</p>	<p>小・中・高校生とワークショップを行えば未来につながるのでは。</p> <p>小中学校への啓発講座や現地観察などふるさと学習を行えばよい</p>	<p>◎学校などと連携したふるさと教育の推進</p>	<p>①-1 学校教育との連携</p> <p>①-2 歴史文化・文化財の学習機会の提供</p> <p>①-2 歴史文化・文化財の活用推進のための情報の提供・機会の創出(地域計画の普及)</p>	
			<p>(再掲) □郷土博物館をはじめとする人文系博物館は、魅力ある展示により、本市の歴史・民俗・美術の学習機会の提供が求められている。</p>				<p>□(再掲) 人文系博物館の展示・普及活動の充実</p>		
			<p>◎多彩な文化財の発掘・再発見 優れたふるさとの文化財の価値や魅力が十分に認識されていない。</p>						
			<p>▲先人達が培ってきた風土や歴史・伝統を受け継ぎ、富山の文化的アイデンティティ(富山らしさ)を再確認し、次世代に伝えとともに、市民一人ひとりが文化に親しむ機運を醸成することにより、富山らしい魅力ある文化・芸術を創造することが期待される。</p> <p>▲市民一人ひとりが本市に対して愛着や誇りを抱くシビックプライドを一層醸成することが重要。</p>				<p>▲伝統的文化・文化遺産の保全・活用</p> <p>▲地域の強みや魅力の発掘・再発見</p> <p>▲ふるさと教育の推進</p>		
		<p>◎天然記念物について、地域住民が存在意義を再認識し、保存継承に対する意識の向上や積極的な活用を図るための取組みが必要である。</p>							
		<p>◎文化財の保存・活用に係る担い手不足。</p>	<p>日常の維持管理で人手が必要だが、協力を得る方法がわからない、ふさわしい人がいないといった問題がある。</p>			<p>◎文化財ボランティアや文化財の専門家などの人材育成</p>	<p>②-1 指定民俗文化財や伝統技術の継承に関する支援</p> <p>②-2 継承にかかる支援情報の発信</p>		
		<p>②文化財継承に関する課題</p> <p>②-1 文化財継承の担い手の確保・育成への支援策が必要である。</p> <p>②-2 支援情報の発信が必要である。</p>	<p>◎無形民俗文化財について、中山間地の人口減少、少子高齢化による担い手不足の問題が顕在化していることから、顕彰などによる保存意欲の喚起や、担い手の確保・育成の取組みを進めていく必要がある。</p>						
		<p>▲伝統文化の担い手の高齢化や後継者不足が顕在化している状況を踏まえ、次世代への伝統文化継承のための対策が必要。</p>	<p>所有者の高齢化が進んでおり、後継者がいない(主に無形民俗文化財)という問題を抱えている。</p>			<p>▲文化遺産等の保全・活用(伝統工芸の技術の継承と振興)</p>			
		<p>③文化財保存活用のための協力体制に関する課題</p> <p>③-1 市民を巻き込んだ協力体制が必要である。</p> <p>③-2 文化財の保存活用を担う組織の構築が必要である。</p>	<p>◎県民が主体となった文化財を活用した地域づくりを一層促進するために、文化財保護や文化振興部局だけでなく、地域振興、観光振興、都市計画・景観づくり部局など関係部局の連携はもとより、地域住民やNPO等の民間団体、地元企業・大学等が共通の意識を持ち、三位一体となって協働できる幅広い連携体制の構築、環境づくりを進める必要がある。</p> <p>◎専門職員の確保と育成など組織の体制整備を務めるとともに、地元の大学や建築士会など関係民間団体等との連携、協働を図っていく必要がある。</p>			<p>官民協力体制の構築が必要</p>	<p>◎地域の個性を活かしたまちづくりの推進</p>	<p>③-1 文化財など地域資源の魅力を伝えるサポーターの育成</p> <p>③-1 文化財保存活用支援団体指定の検討</p> <p>③-2 行政・関係機関との連携</p> <p>③-2 専門職員などの人材育成</p>	

歴史的事象等のつながり  
(第3章関連)



注1：本図は富山市の主な歴史的事象等を示すものであり、文化財名を掲載したものではありませんが、一部事象においては代表的な文化財を掲載しています。

注2：本図は上部を北として、地理的なおおよその関連位置に各項目を掲載しています。ただし、地図上に配置できない事象、範囲が広い事象などもあり、必ずしもその項目の位置が地理的な意味をもつものではありません。

## 歴史文化の特性について（第3章関連）

歴史文化の特性（案）	細別	関連する主な歴史的事象・文化財
海拔0mから2,986mの営み	大地の記憶－富山のはじまり－	記念物（自然）、原始古代遺跡
	山里海の恵みが育む生業と信仰・祭礼	養蚕（蚕種）、漁業、鉱業、林業、焼き物、木工芸、米作等、農山漁村
		曳山や獅子舞など地域の祭礼行事、寺社、宗教美術、信仰関係文化財
川と闘い、川と生きる	川の恵みをいかす	漁業、鱒寿司、発電所、用水
	水の災いに立ち向かう	安政飛越地震の転石、近代治水・砂防施設、橋、イタイイタイ病
海と陸の交流	海・陸の道と交流の足跡	四隅突出型墳丘墓、北前船、港町（廻船問屋の町家、米騒動など）、街道、猪谷関跡
くすりのまち富山	越中富山のくすり売りと関連産業	売薬（富山の売薬用具、旧金岡家住宅、旧密田家土蔵、売薬関係古文書、神農信仰）、製紙、ガラス、北前船
城下町から県都富山市へ	戦国動乱と富山築城	中世城館、佐々・上杉・神保関係
	都市富山の発展（近世～近現代）	富山城、城下町、長岡御廟、売薬、都市計画事業、富山大空襲

・歴史文化…文化財とそれを取りまく環境(文化財が生まれ守られてきた環境、自然環境や人々の営み等)を総体的に把握した概念。地域固有の歴史や文化にまつわるコンテキスト。＝「地域らしさ」

・関連文化財群…地域の多種多様な文化財を歴史文化の特性に基づいて一定のまとまりとしてとらえたもの。記載する際は、設定の考え方や名称、概要(テーマ・ストーリー)、構成文化財の一覧、関連文化財群ごとの保存活用の課題・方針、措置の内容を記載。

## 序章

### 1 作成の背景と目的

本市は、富山県の中央部に位置する人口約 41 万人の県都で、市域は 1,241.7km<sup>2</sup> と県都としては国内 2 位の広さを持ち、水深 1,000m の富山湾海岸部から標高 3,000m 級の北アルプス立山連峰までの多様な地勢を有しています。また、本市は古くから「くすりのまち」として全国に知られるように、薬業をはじめとするものづくり産業が盛んな日本海側有数の中核都市としてこれまで発展してきました。

このような豊かな自然環境と歴史文化をもつ本市では、多様な文化財が今でも各地で大切に受け継がれてきています。

しかし、全国的な人口減少、少子・超高齢社会が問題となる中、本市においても、総人口は既に減少に転じており、今後もその傾向は続く見込まれています。さらにはこうした現状から、地域コミュニティではその担い手不足という課題が顕在化してきています。そして、地域社会の都市化やライフスタイル・価値観の多様化もあいまって、地域コミュニティの機能低下による、文化財の保存や継承等への影響が懸念されています。

また、令和 6 年（2024）1 月 1 日に発生した能登半島地震では、被災地にて多くの文化財が被害をこうむりました。本市においても文化財建造物が破損するなどの被害が生じ、その復旧に取り組むと同時に、文化財を災害から守る体制強化もまた喫緊の課題となっています。

本市の「第 2 次富山市総合計画」では、伝統文化の継承と文化財を活用したまちづくりを目指す「伝統的文化・文化遺産の保全・活用」を施策に掲げているところであり、また、近年では地域住民や民間団体による、文化財を活用した地域活性化を目指す取組もみられます。

国においても、文化財をまちづくりに活かしつつ、文化財継承の担い手を確保し、地域社会総がかりで取り組んでいくことのできる体制づくりを整備する必要から、平成 30 年に文化財保護法が改正され、市町村による文化財保存活用地域計画の作成が制度化されました。

以上の背景をふまえ、本市では文化財保護法第 183 条の 3 の規定に基づき、文化財の保存・継承、さらにはその活用に関するマスタープランと具体的なアクションプランを示す「富山市文化財保存活用地域計画」（以下、「本計画」という）を作成し、文化財を活かした魅力ある地域づくりを市民とともに目指します。

### 2 本計画の位置づけ

本計画は、文化財保護法に基づいた本市文化財の保存・活用に関する総合的な計画であり、作成にあたっては「富山県文化財保存活用大綱」や本市の上位計画である「第 2 次富山市総合計画」、「第 3 期富山市教育大綱」及び「第 3 期富山市教育振興基本計画」、その他本市の関連計画との整合性を図りました。

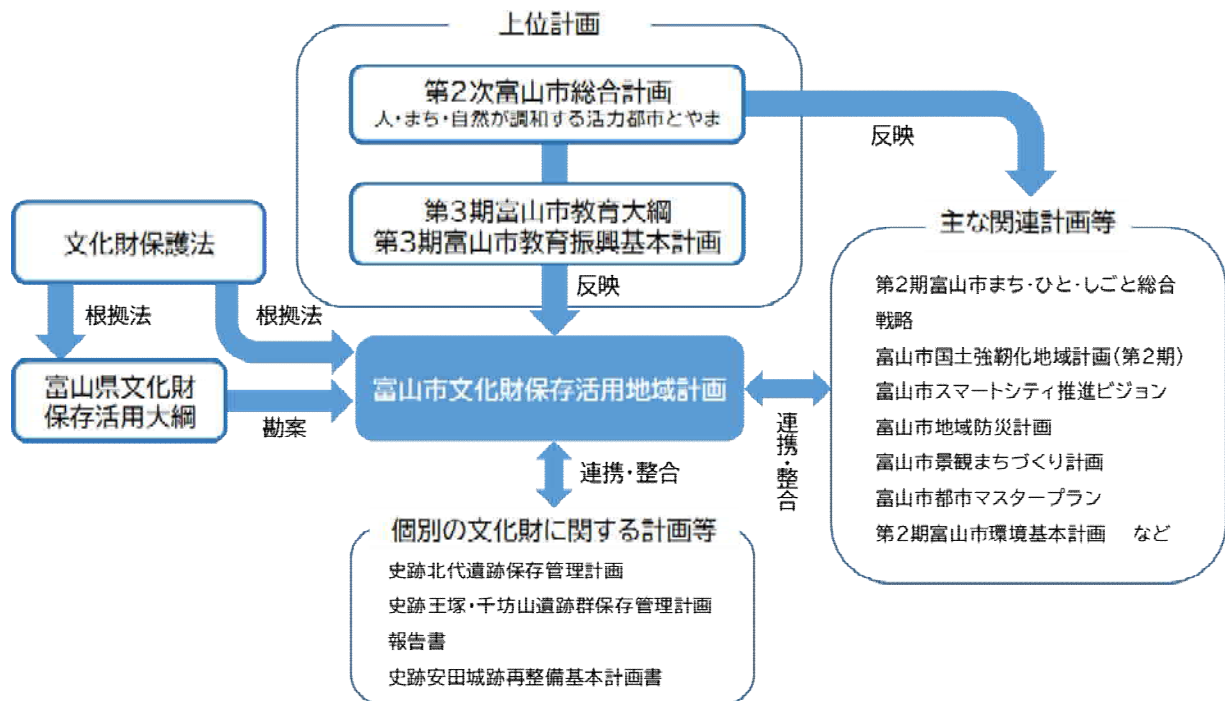


図 富山市文化財保存活用地域計画の位置づけ

## (1) 富山県の関連計画

### ① 富山県文化財保存活用大綱（令和3年（2021）3月策定／計画期間定めず）

文化財保護法第183条の2の規定に基づき策定された、富山県における文化財の保存・活用の基本的な方針や取組の方向性を示す大綱です。

本大綱では、今後目指すべき将来像を「県内各地域において育まれてきた自然、歴史や伝統文化などの魅力を発掘、再発見するとともに、さらに磨き上げ、次の世代へ継承する活動が活発に行われていること」とし、保存・活用の推進を図るための5つの基本方針を示しています。

また、県内の市町村が同じ方針の下に、文化財の保存・活用の取組を促進するための共通の基盤となることも本大綱の目的とされています。

## (2) 富山市の上位計画

### ① 第2次富山市総合計画（平成29年（2017）3月策定／計画期間：平成29年度～令和8年度）

この計画は、本市のまちづくりにおける長期的かつ基本的な方向を示した本市の最上位計画です。「安らぎ・誇り・希望・躍動」を基本理念とし、「人・まち・自然が調和する活力都市とやま」を目指すべき都市像として掲げています。

この都市像を実現するために、本計画では4つのまちづくりの目標を設定し、その下に14の政策及び51の施策を位置づけています。

また、本市の歴史文化や文化財にかかわる政策・施策及び施策の方向として、主に以下のものがあります。

まちづくりの目標Ⅰ すべての人が輝き安心して暮らせるまち【人材・暮らし】
政策1 すべて世代が学び活躍できるひとづくり 施策(4) 生涯学習の充実 ・ 施策の方向② 生涯学習拠点の充実(博物館・美術館の充実)

まちづくりの目標Ⅲ 人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】
政策2 観光・交流のまちづくり 施策(2) 観光資源の創出・発信と受入体制の整備 ・ 施策の方向① 地域資源の活用による新たな観光資源の創出 ほか
政策4 歴史・文化・芸術のまちづくり 施策(1) 伝統的文化・文化遺産の保全・活用 ・ 施策の方向① 文化遺産等の保全・活用

まちづくりの目標Ⅳ 共生社会を実現し誇りを大切にする協働のまち【協働・連携】
政策2 市民の誇りづくり 施策(1) 地域・自治体としてのブランディングとシティプロモーション ・ 施策の方向① 富山のイメージを高めるブランド化の推進 施策(2) シビックプライドの醸成 ・ 施策の方向① 地域の強みや魅力の発掘・再発見 ・ 施策の方向② ふるさと教育の推進

② 第3期富山市教育大綱(令和6年(2024)2月策定/計画期間:令和6年度~令和10年度)

本大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3第1項の規定に基づき策定された、本市教育や学術・文化の振興に関する総合的な施策の「基本的な方針」となるものです。

教育目標に「自立と公共の精神を重んじて教育の高揚を図り、新たな時代を拓く心豊かな市民を育む 1 志をかかげ、知性をみがき、実践力を高める 2 我が国と郷土を愛し、自然に学び、芸術・文化に親しむ豊かな情操を養う 3 健やかでたくましい心と体を備える」を掲げています。

本大綱において定められた基本的な方向のうち、本市の歴史文化や文化財にかかわるものとして、「生涯を通じた教育の充実と文化遺産等の保全・活用」があります。

**③ 第3期富山市教育振興基本計画（令和6年（2024）2月策定／計画期間：令和6年度～令和10年度）**

この計画は、教育基本法第17条第2項の規定に基づき策定された、本市の教育の振興のための施策に関する基本的な計画です。本市教育大綱でも掲げた教育目標のもとに、本市教育の目指すべき方向を、4つのビジョン（基本的な方向）と16のアクション（基本施策）として体系化しています。

このうち、本市の歴史文化や文化財にかかわるものとして、基本的な方向4「生涯を通じた教育の充実と文化遺産等の保全・活用」のなかの、基本施策2「生涯学習活動拠点の充実」及び基本施策3「文化遺産等の保全・活用」があります。

**（3）富山市の関連計画**

**① 第2期富山市まち・ひと・しごと総合戦略（令和2年（2020）3月策定・令和5年（2023）3月改訂／計画期間：令和2年度～令和6年度）**

本総合戦略は、本市の地方創生の取組のさらなる深化を図り、少子・超高齢社会にあっても将来にわたり一定の人口を維持し、活力ある持続可能なまちづくりを目指すために策定されました。

基本目標及び施策のうち、本市の文化財にかかわるものとして、基本目標1「産業活力の向上により、安定した雇用を創出する～地方の中核を担う都市として躍動するまち～」及び基本目標4「持続可能な都市経営・まちづくりを推進する～公共交通を軸としたコンパクトなまち～」の施策「オープンデータの活用促進」において、「新たに観光地、文化財等の画像データの公開に向けて取り組む」ことを掲げています。

**② 富山市国土強靱化地域計画（第2期）（令和4年（2022）3月策定／計画期間：令和4年度から概ね5年間）**

この計画は、強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法第13条の規定に基づき策定された国土強靱化に関する指針です。

いかなる自然災害等が発生しようとも、最悪な事態に陥ることを避け、市民の生命や財産を守り、産業・経済活動をはじめとした都市活動を維持し、迅速な復旧復興が可能となる強靱で回復力のある安心・安全なまちを目指すべき将来像としています。

本市の文化財にかかわる推進方針として「貴重な文化財や自然環境の保全」を掲げており、具体的には文化財建造物の耐震化等の推進を挙げています。

**③ 富山市スマートシティ推進ビジョン（令和4年（2022）11月策定／計画期間：令和4年度～令和14年度）**

本市では、デジタル技術を活用し、従来取り組んできた「コンパクトなまちづくり」

を“深化”させ、産学官民が連携して地域課題の解決を図るスマートシティ政策に取り組んでいます。

本ビジョンは、スマートシティ推進の観点から、すべての個別部門計画に対する総合的な指針となるものです。

本ビジョンでは、まちづくりの目標の一つに「地域の宝を未来へつなぐ地域づくり・人づくりのまち」を掲げ、そのなかの施策テーマ「誇れるものがある暮らし」の取組の方向性の一つに「伝統や文化が大切に継承されている」ことを挙げています。

また、まちづくりの目標「互いに地域を尊重し支えあう一体感のある持続可能なまち」では、施策テーマ「地域の魅力を分かちあい支えある暮らし」のなかで、「地域の魅力が新たな交流を生んでいる」ことを取組の方向性の一つとするなど、地域の魅力によって各地域がつながることを目指しています。

#### ④ 富山市地域防災計画（毎年修正）

この計画は、災害対策基本法第 42 条の規定に基づき、市及び防災関係機関等が行う各種防災活動の指針であり、防災対策事業の推進にあたっての基本となるものです。

①減災に向けた災害予防、②地域防災力の向上、③災害情報伝達体制の整備、④応急対策と避難環境の整備、⑤災害対策本部の機能強化の 5 点を基本方針としています。

文化財については、文化財防火デーの実施等による防災知識の普及啓発、文化財被災防止対策や応急対策等を記載しています。

#### ⑤ 富山市景観まちづくり計画（令和 5 年（2023）4 月策定／計画期間定めず）

この計画は、景観法第 8 条の規定に基づき、本市の景観まちづくりの総合的指針です。

「豊かな自然や歴史文化を守り育む」を基本目標の一つとし、歴史的景観の形成に関する基本方針として「地域の歴史を今に伝える貴重な歴史的景観を守る」を掲げています。

本市では、重点的に景観の形成に取り組むべき区域を「景観まちづくり推進区域」に指定しており、歴史的なまち並みが残る八尾地区が現在指定されています。またこの計画では、北前船の廻船業で栄えた岩瀬地区を指定候補に位置づけています。

#### ⑥ 富山市都市マスタープラン（平成 20 年（2008）3 月策定、平成 31 年（2019）3 月改定／平成 20 年度～令和 7 年度）

このマスタープランは、都市計画法第 18 条の 2 に定める「市町村の都市計画に関する基本的な方針」であり、都市の長期的なまちづくりの方針を総合的・体系的に示すものです。

本計画では、公園整備やまちづくりなどにおける歴史的資源の活用を掲げています。

**⑦ 第2期富山市環境基本計画（平成29年（2017）3月策定／計画期間：平成29年度～令和8年度）**

この計画は、富山市環境基本条例第11条の規定に基づく、「富山市総合計画」における環境部門の総合的な計画です。

「環境から創る 活力と魅力あふれる都市 とやま」を基本目標としており、分野別目標4「環境と人にやさしいコンパクトなまち」の施策の一つに「まちの景観・美観と歴史・文化の継承」を掲げています。

**（4）個別の文化財に関する計画**

**① 史跡北代遺跡保存管理計画（昭和54年（1979）策定／計画期間定めず）**

この計画は、富山市北代に所在する国指定史跡北代遺跡の保存管理計画です。

将来にわたって予想される開発等による現状変更等行為に対する取扱方針を定めています。

**② 史跡王塚・千坊山遺跡群保存管理計画報告書（平成20年（2008）3月策定／計画期間定めず）**

この計画は、富山市婦中町羽根・長沢・新町・富崎・千里地内に所在する国指定史跡王塚・千坊山遺跡群の保存管理計画です。

指定範囲が広大な史跡を、将来にわたって良好な状態で確実に保存するための基本方針や保存管理の方策、現状変更等の取扱方針及び取扱基準、運営体制整備等を掲げています。

**③ 史跡安田城跡再整備基本計画書（平成31年（2019）3月策定／計画期間定めず）**

この計画は、富山市婦中町安田に所在する国指定史跡安田城跡の保存活用計画及び再整備基本計画です。

保存・活用の大綱・基本方針として、史跡の本質的価値を尊重した保存管理、史跡の価値の保存との両立を図りながらも多様な役割を果たせるような活用、再整備事業の実施、運営体制の整備等を掲げています。

**（5）本計画とSDGsとの関係**

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは、平成27年（2015）の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて掲げられた、令和12年（2030）までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。本市は平成30年（2018）に国の「SDGs未来都市」に選定されており、20年、30年先を見据えた「持続可能なまちづくり」を目指しています。

SDGsは17のゴール(目標)・169のターゲットから構成されており、文化財の保存と活用を目指す本計画は、このうち目標4「質の高い教育をみんなに」、目標11「住み続けられるまちづくりを」と関連しています。



### 3 計画期間

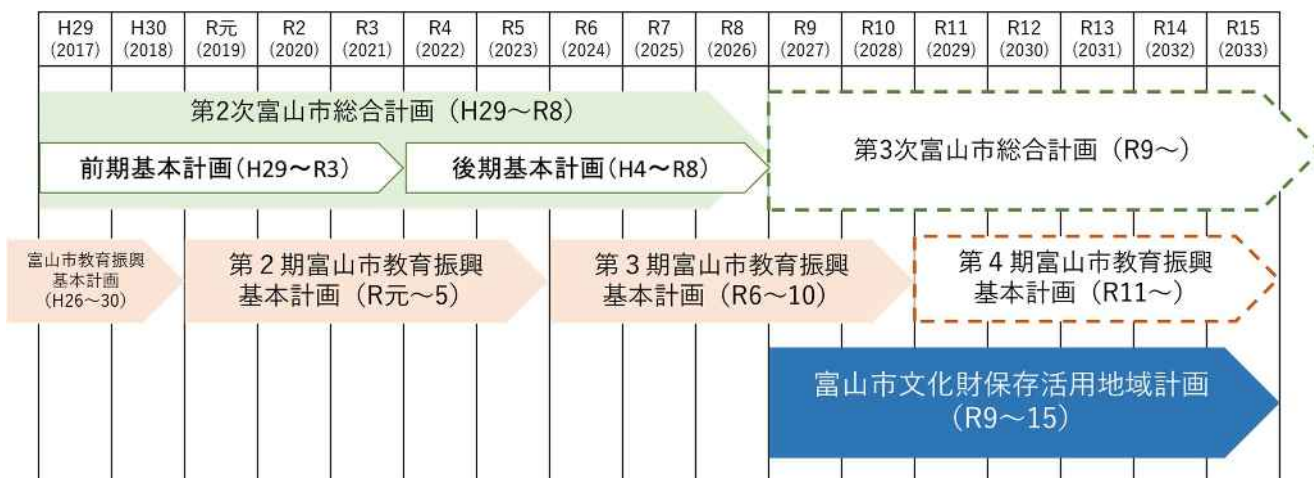
本市の最上位計画となる「富山市総合計画」について、現在の「第2次富山市総合計画」の計画期間は平成29年度から令和8年度までとなっています。また、教育に関する分野別計画となる「富山市教育振興基本計画」の第3期が令和6年度から令和10年度までとなっています。

本計画の計画期間は最終年度を本市教育振興基本計画の改定時期と合わせるため、令和9年度から同15年度の7か年とします。

なお、本計画に記載した取組について、本市が主体となって実施するものは進捗状況等の自己評価を実施します。また計画期間内に社会情勢の変化や上位関連計画の改定などにより、計画内容の変更が必要になった場合、計画の見直しを行います。そのうち、次に示す変更が必要な場合は、文化財保護法第183条の4の規定に基づき、文化庁長官へ変更の認定を申請します。それ以外の軽微な変更については、富山県及び文化庁へ情報提供を行います。

#### 文化庁長官による変更の認定が必要な変更内容

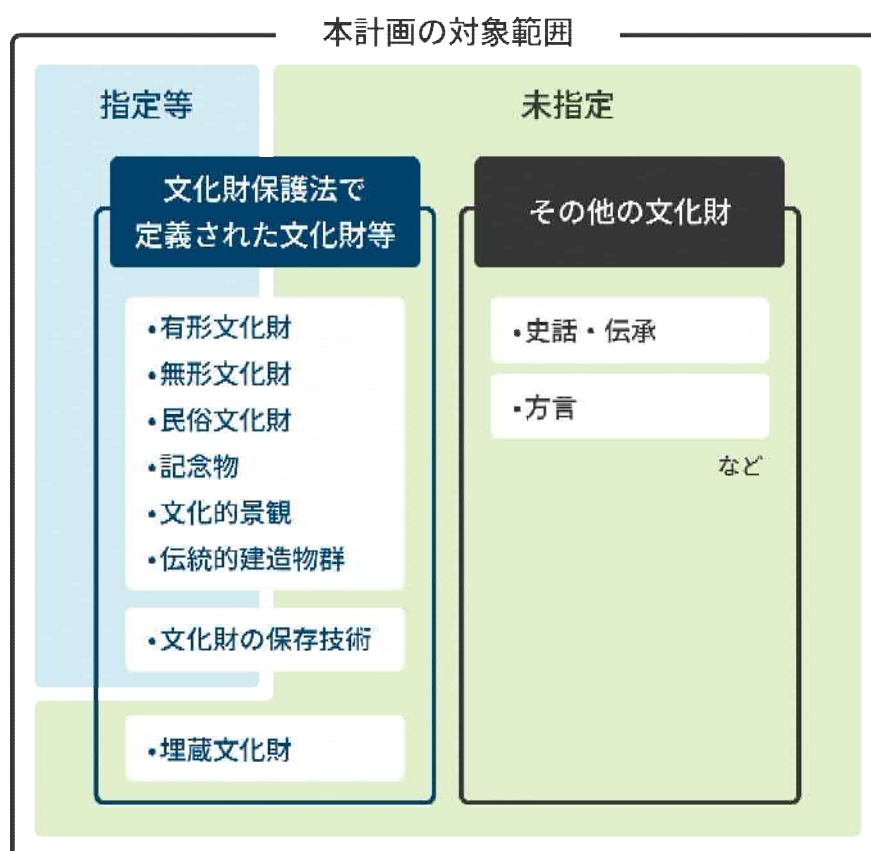
- ・ 計画期間の変更
- ・ 市町村の区域内に存する文化財の保存に影響を及ぼすおそれのある変更
- ・ 本計画の実施に支障が生じるおそれのある変更



## 4 本計画の対象となる文化財

従来「文化財」は、文化財保護法に定められた類型等によって定義づけられてきました。しかし、方言や伝承といった、上記類型に当てはまらないものもまた、地域の歴史文化※をかたちづくってきた大切な遺産であり、これまでも国や自治体、研究機関等において調査・保存継承活動が行われてきました。

本計画では、従来刊行された自治体史や調査報告書等を整理し、これまでどのような文化財が注目されてきたのかを踏まえ、抽出する文化財を設定しました。



※歴史文化…地域に固有の風土の下、先人によって生み生まれ、時には変容しながら現代まで伝えられてきた知恵・経験・活動等の成果及びそれが存在する環境を総体的に把握した概念。地域の歴史や文化にまつわるコンテキスト。歴史文化の特徴は、地域らしさ、地域の特徴をあらわす。(文化庁作成パンフレット「地域総がかりでつくる文化財保存活用地域計画―歴史文化で魅力ある地域へ―」5ページより)

## 5 本計画作成の体制と経緯

### (1) 作成体制

本計画作成にあたっては、文化財保護法第183条の3第3項の規定に基づき、富山市文化財調査審議会及び富山市文化財保存活用地域計画策定協議会より意見聴取を行いました。

【富山市文化財調査審議会】（令和7年3月現在）

	選出分野	専門	氏名	役職等
	考古	史跡	高橋 浩二	富山大学教授
		考古	西井 龍儀	富山考古学会理事
会長職務代理	歴史	古代	鈴木 景二	富山大学教授
		中世	久保 尚文	大山歴史民俗研究会会長
		地域史	城岡 朋洋	富山近代史研究会会長 富山県〔立山博物館〕前館長
	民俗	有形民俗	安カ川 恵子	富山民俗の会幹事
		無形民俗	島添 貴美子	富山大学教授
	美術	美術	若松 基	富山県水墨美術館長
会長	建造物	建造物	上野 幸夫	職藝学院学院長
	自然史	植物	中田 政司	富山県立中央植物園長
		動物	布村 昇	富山県生物学会顧問
		地質・化石	清水 正之	元県立志貴野高等学校長

【富山市文化財保存活用地域計画策定協議会】（令和7年3月現在）

	区分	氏名	所属・役職等	専門分野
	商工団体	今川 清司	富山商工会議所産業振興部長	商工
議長	学識経験者	上野 幸夫	職藝学院学院長 市文化財調査審議会会長	伝統的建造物
	その他	菊川 祐介	富山市自治振興連絡協議会副会長	地域振興
	文化財所有者	齊藤 和雄	熊野神社稚児舞保存会会長	民俗芸能継承団体
	学識経験者	島添 貴美子	富山大学教授 市文化財調査審議会委員 富山県文化財保護審議会委員	無形民俗
	学識経験者	鈴木 景二	富山大学教授 市文化財調査審議会委員(会長職務代理) 富山県文化財保護審議会委員	歴史
	観光団体	関野 孝俊	富山市観光協会事務局長	観光
	行政(県)	辻 ゆかり	富山県教育委員会 生涯学習・文化財室長	文化財行政
	その他	中村 茂信	富山市公民館連絡協議会会長	地域振興
	学識経験者	籾谷 祐介	富山大学講師 市景観まちづくりアドバイザー	建築・まちづくり
	事務局		教育委員会事務局 生涯学習課	

### (2) 作成までの経緯

(最後に作成、以下略)

# 第1章 富山市の概要

## 1 自然的・地理的環境

### (1) 位置・面積

本市は富山県の中央部から南東部に位置し、富山県の面積の約3割を占めます。東西60km、南北43km、1,241.7km<sup>2</sup>の広さをもつ県都であり、飛騨山脈（北アルプス）から富山湾の海岸部まで多様な地勢を有しています。

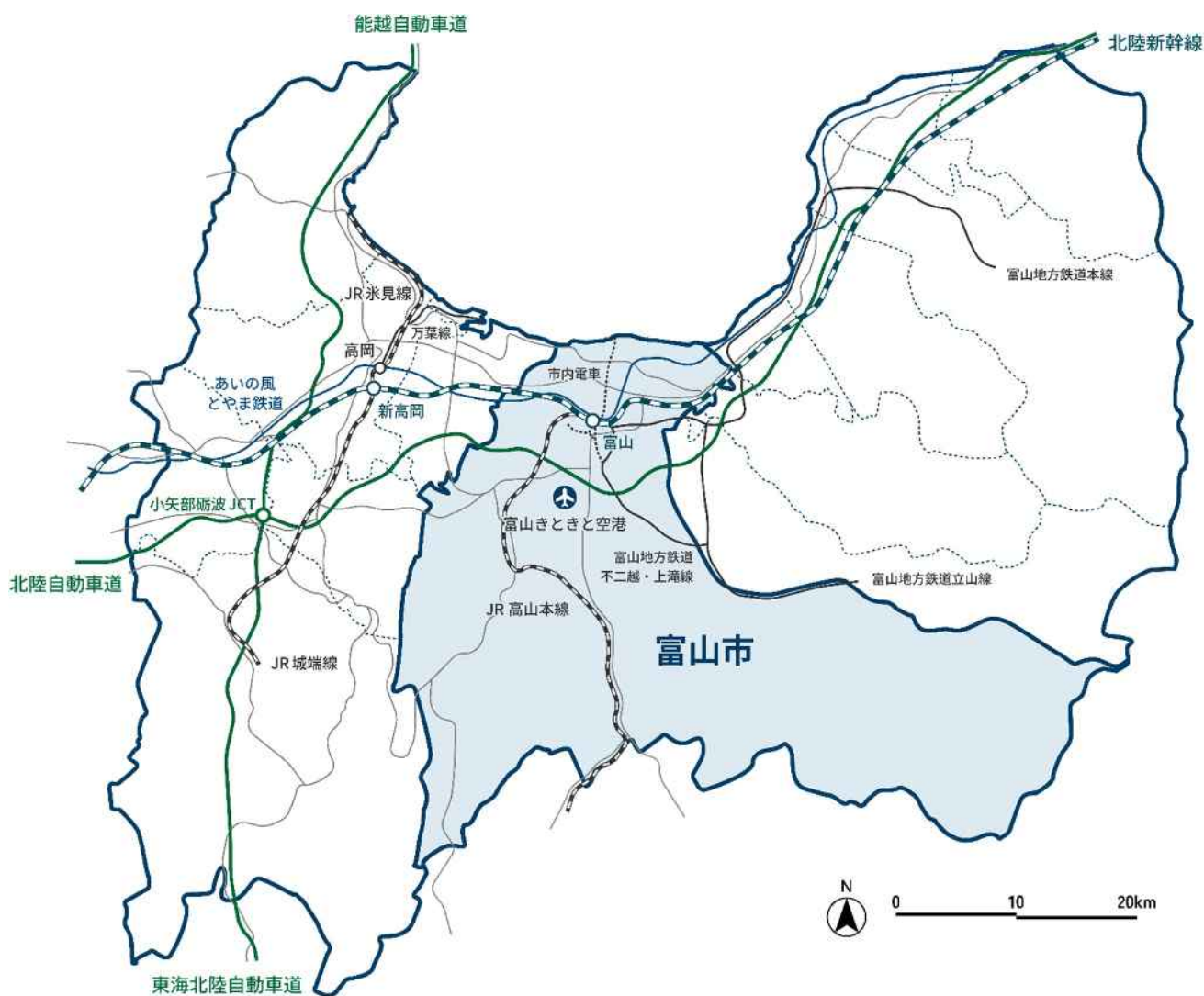
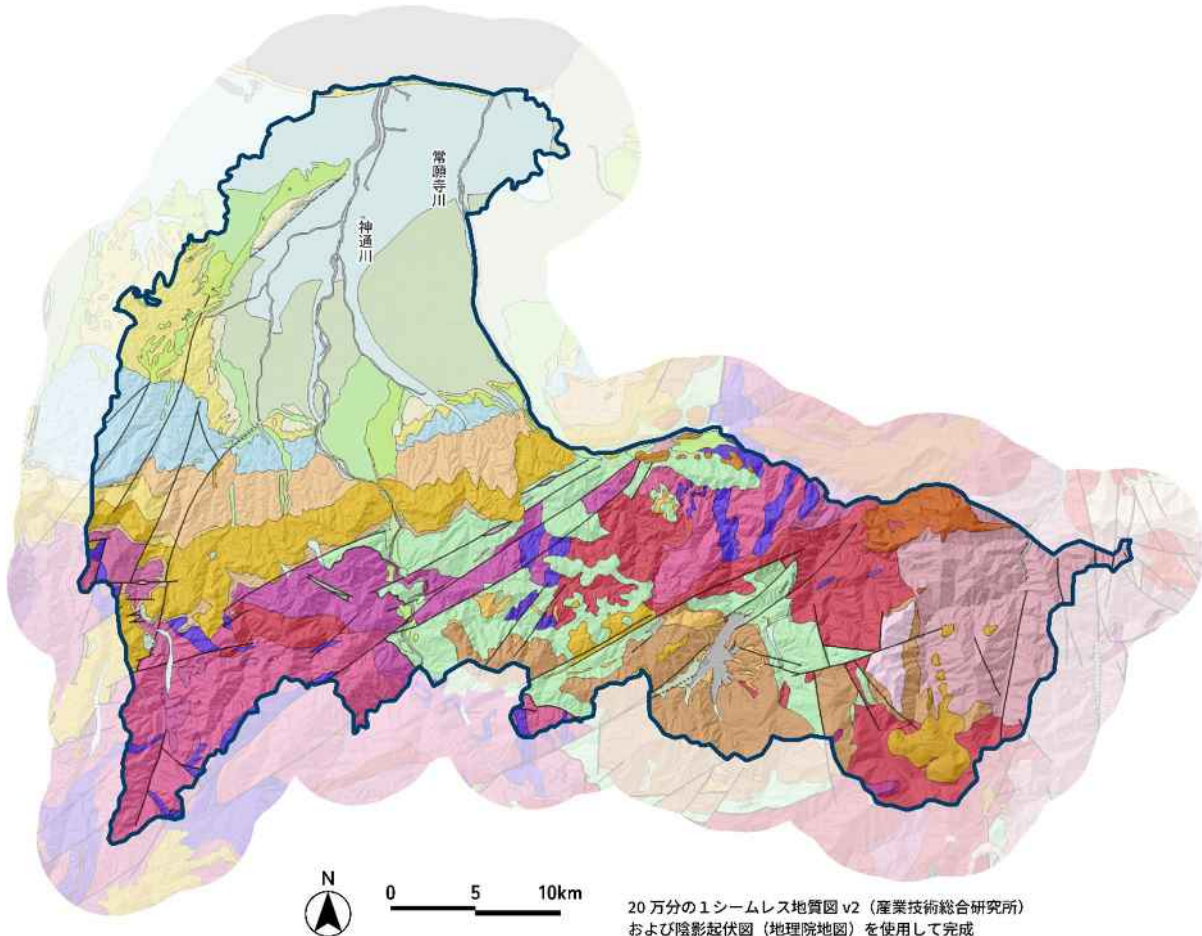


図 富山市の位置



## ② 地質

本市の地質は、南部および東部の標高の高い山地に年代の古い岩石が分布し、北部の海岸に向かって新しい地質となる傾向にあります。



20万分の1シームレス地質図 v2 (産業技術総合研究所)  
および陰影起伏図 (地理院地図) を使用して完成

新生代	第四紀	完新世 谷底平野・山間盆地・河川・海岸平野堆積物	中生代	白堊紀	カンパニアン期～マーストリヒチアン期 花崗岩 塊状 島弧・大陸	
		完新世 海岸・砂丘堆積物			カンパニアン期～マーストリヒチアン期 斑れい岩 島弧・大陸	
		完新世 安山岩・玄武岩質安山岩 溶岩・火砕岩			アプチアン期～アルビアン期 非海成層 砂岩・泥岩	
		後期更新世後期～完新世 扇状地・崖錐堆積物			アプチアン期～アルビアン期 非海成層 礫岩	
		後期チバニアン期～完新世 地すべり堆積物			アプチアン期～アルビアン期 デイサイト・流紋岩 溶岩・火砕岩	
		後期更新世 安山岩・玄武岩質安山岩 溶岩・火砕岩			ジュラ紀	後期ジュラ紀 海成層 砂岩泥岩互層
		後期更新世中期～後期更新世後期 段丘堆積物				前期ジュラ紀～中期ジュラ紀 花崗岩 塊状 島弧・大陸
		後期更新世前期 段丘堆積物				前期ジュラ紀～中期ジュラ紀 花崗閃緑岩・トーナル岩 塊状 島弧・大陸
		後期チバニアン期 段丘堆積物			三疊紀	前期三疊紀～後期三疊紀 ノーリアン期 石灰質片麻岩・石灰質グラノフェルス
		チバニアン期 安山岩・玄武岩質安山岩 溶岩・火砕岩				前期三疊紀～後期三疊紀 ノーリアン期 珪長質片麻岩
更新世 ジェラシアン期～前期チバニアン期 海成層	花崗岩 片麻状 島弧・大陸					
更新世 ジェラシアン期～前期チバニアン期 非海成層	花崗岩 塊状 島弧・大陸					
新第三紀	中新世 後期ランギアン期～トートニアン期 海成層 泥岩					
	中新世 後期ランギアン期～トートニアン期 海成層 砂岩					
	中新世 パーディガリアン期～前期ランギアン期 海成層 礫岩					
	中新世 パーディガリアン期～前期ランギアン期 デイサイト・流紋岩 溶岩・火砕岩					
	中新世 パーディガリアン期～前期ランギアン期 安山岩・玄武岩質安山岩 溶岩・火砕岩					
古第三紀	漸新世 チャッティアン期～新第三紀 中新世 アキタニアン期 非海成層 礫岩					
	晩新世 ダニアン期～始新世 ヤブレシアン期 花崗岩 塊状 島弧・大陸					
	晩新世 ダニアン期～始新世 ヤブレシアン期 デイサイト・流紋岩 大規模火砕流					

図 地質図

飛騨高地から飛騨山脈にかけては、三畳紀～ジュラ紀の変成岩および花崗岩類、白亜紀の堆積岩および花崗岩類が広く分布しています。飛騨山脈には、第四紀の火山岩類が局所的に分布し、雲ノ平や五色ヶ原などの溶岩台地を形成しています。立山カルデラは、活火山である弥陀ヶ原火山の活動後に形成された侵食カルデラです。本市中央部の山地には、新第三紀の堆積岩や火山岩が、東西に帯状に分布しています。山地の縁に分布する台地・段丘は、第四紀に形成された砂礫からなります。

低地には、山地から流れ出した砂礫が広く堆積しています。特に本市を流れる神通川と常願寺川が複合扇状地を形成しており、低地の大部分を占めています。さらにその北側から海岸部には、第四紀完新世に堆積した土砂が堆積しています。

### ③ 水系

日本海沿岸に位置する富山県は全国有数の降水地帯で、特に、冬期の降雪が多いという特徴があります。山地に降り積もった雪は、雪解け水となって一気に日本海まで流れ下るため、県内の河川の多くは急流河川となっています。河川では豊富な水量と急峻な地形を利用した水力発電が多く行われている他、平野部では、網目のように張り巡らされた農業用水路を通じて大地が潤されるなど、地域の生活と深いかかわりがあります。

本市には、県内の代表的な7大河川※のうち、神通川と常願寺川が流れています。また、黒部川の源流は本市に位置します。

神通川の源流は岐阜県高山市の川上岳（標高 1,626m）で、本市の山間部では峡谷地形を示し、神通峡として親しまれています。河口付近では蛇行し、そのため古くから洪水に悩まされていましたが、明治末以降、大きく曲流していた流路（現在の松川）を直線化し、それに伴い、下流部に富岩運河を作りました。また、神通川沿いには飛騨街道が通じ、古くから飛騨と越中を結ぶ交通の要路となっています。

常願寺川の源流は飛騨山脈の北ノ俣岳（標高 2,661m）で、上流域は、極めて急峻な地形となっています。また降水量も多いことから、度々、洪水が発生しました。特に安政5年（1858）の飛越地震では、上流の立山カルデラで大鳶山・小鳶山が崩壊し、形成された堰止湖が決壊することで、土石流が富山平野に押し寄せ、大きな被害をもたらしました。この土砂災害以降河床が高くなったことから、常願寺川は暴れ川となり、水害と土砂災害が頻発するようになりました。そのため上流～中流部には、多くの砂防施設が形成されています。

※ 黒部川・片貝川・早月川・常願寺川・神通川・庄川・小矢部川

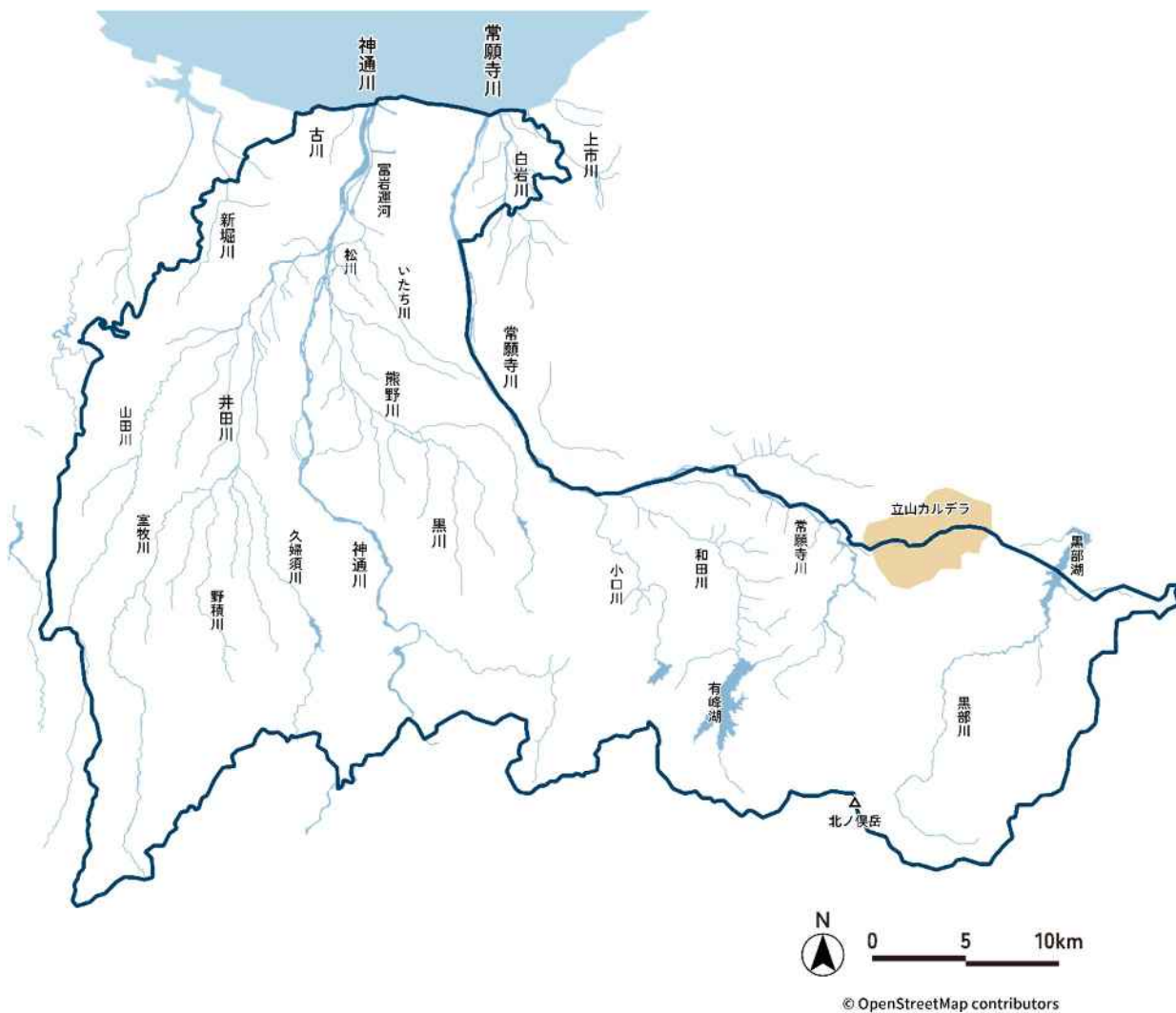


図 河川図

### (3) 気候

本市は日本海側気候に属し、冬季の冬型の季節風による降雪が最も大きな特徴です。春は大陸の高気圧の衰えにともない、低気圧が日本海を通過して強い南風が吹き、気温が上昇するフェーン現象がみられます。

春から夏にかけては山岳地帯からの雪解け水が富山平野を潤し、梅雨の前半は比較的穏やかな天気が続きますが、後半は梅雨前線が日本海側まで北上し、大雨に見舞われることが多くあります。

冬は西高東低の気圧配置となり、雷を伴ったみぞれや雪が降ることが多く、中山間部ではしばしば豪雪に見舞われます。過去30年間（平成6年～令和5年（1994～2023））の平均年間降水量は2,386mmで、冬季の降水量の多いのが特徴です。

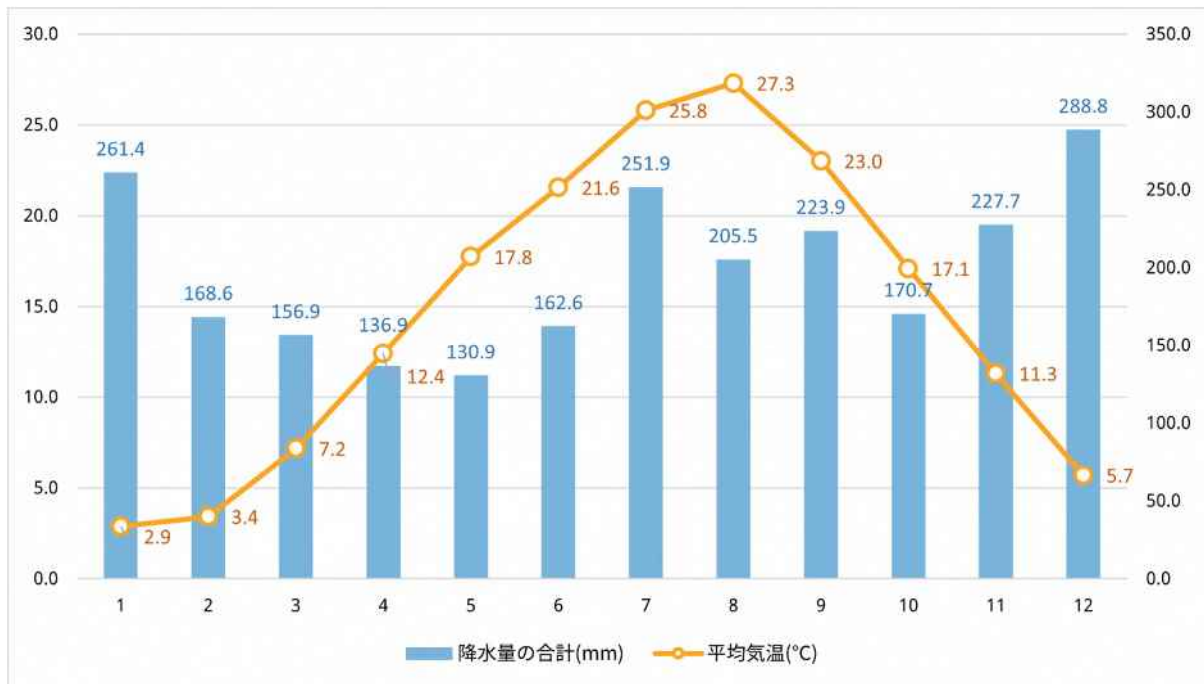


図 降水量・気温の月別平均値

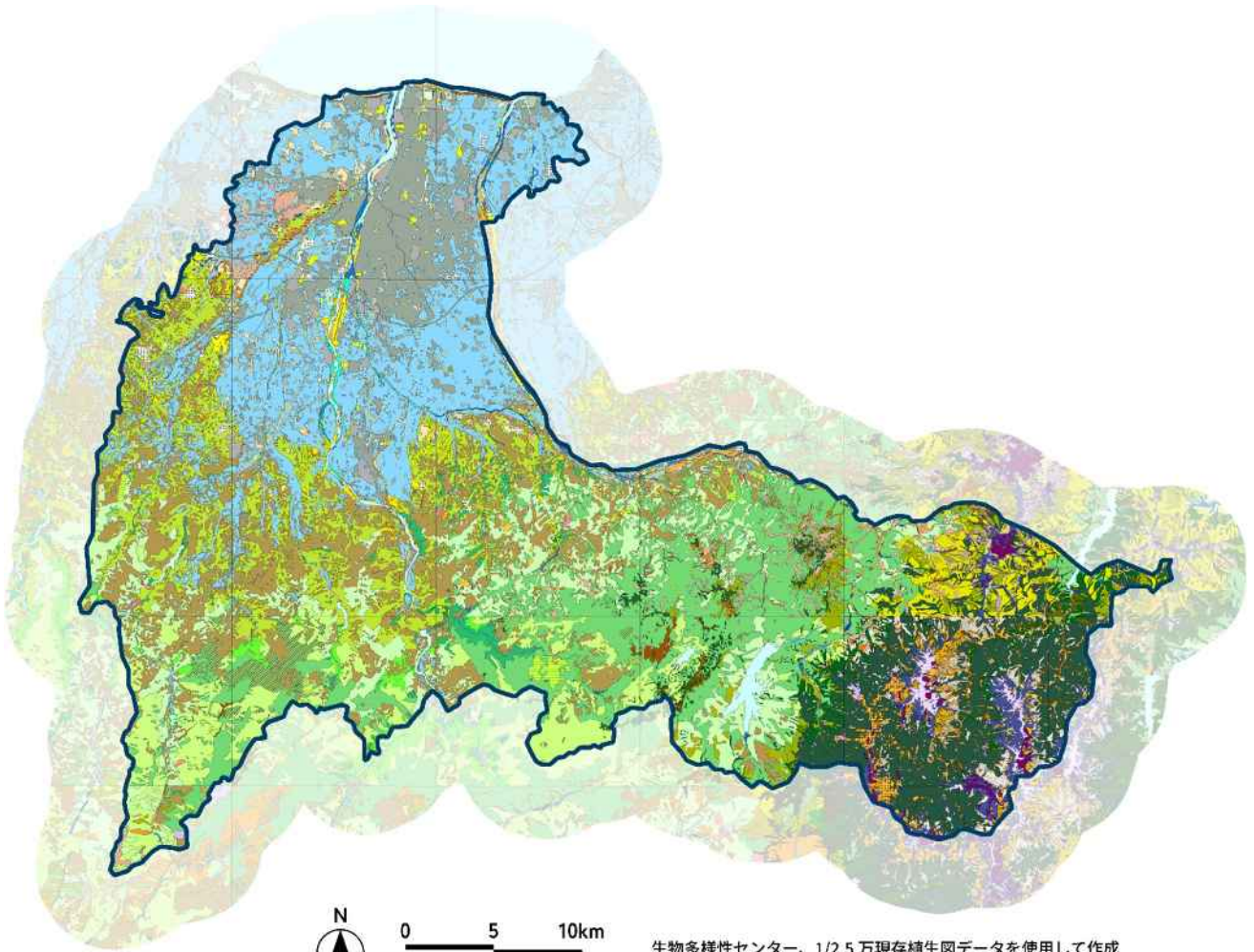
(地点：富山 期間：平成6年～令和5年（1994～2023）)

(気象庁 HP 気象データより作成)

#### (4) 植生

本市は、温暖湿潤気候の中にあつて、冬季の降雪が多い日本海側気候にあり、標高3,000m級の飛騨山脈から海岸部までの標高差を伴う垂直的な気候変化があります。植生はそれらの気候や地形によって様変わりし、多様性に富んでいます。大部分の植物は日本全域に分布する植物ですが、多雪地域に生育する日本海要素の植物や分布の限られる高山植物は、本市の植生を特徴づけています。

標高ごとに植生の特徴を見てみると、海岸部は海岸浸食が大きいために砂浜は減少していますが、コウボウムギ等の海浜植物群落が見られ、海岸沿いの街道には、人によって植えられて維持管理されたクロマツが並んでいます。平野や低山地ではヤブツバキやゴンズイ等の南方系の植物が見られ、寺社林にはスギ、ケヤキ、スダジイの大木が残されていることがあります。河川は急峻な山から海へと短い距離で流れるために急流であり、常願寺川では、洪水によって攪乱された中流域の礫河原に、アキグミが多く生育することは、本市における植生の特徴の一つとなっています。丘陵地にはコナラを主とする雑木林があり、山麓部の寺社林ではスギ、ケヤキ、カツラ、アカガシ等の大木が見られます。標高1,000m前後の山地になると積雪は3mを越え、ブナやミズナラを主とする林が優占し、日本海要素のチャボガヤやユキツバキ等の植物が林床に見られます。標高約1,600m以上の亜高山には、ゴヨウマツやオオシラビソ等の針葉樹、ダケカンバ等の広葉樹からなる林があります。標高2,500m以上の高山には、冬季の強い季節風によって高木は生育できず、ハイマツやチングルマ等の高山植物が生育します。



生物多様性センター、1/2.5万現存植生図データを使用して作成

- |   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■ コケモロ・ハイマツ群集</li> <li>■ 高山ハイデ及び風衝草原</li> <li>■ 雪田草原</li> <li>■ オオシロヒソ群集</li> <li>■ シラビソ・オオシロヒソ群集</li> <li>■ コメツグ群落</li> <li>■ カラマツ群落</li> <li>■ ミドリユキザサ・タケカンバ群集</li> <li>■ ササ・ダケカンバ群落</li> <li>■ シナノキンバイ・ヤマキボウゲ群集</li> <li>■ ササ群落 (II)</li> <li>■ チシマザサ群落 (III)</li> <li>■ タケカンバ群落 (III)</li> <li>■ チシマザサ・ブナ群集</li> <li>■ スギ・ブナ群落</li> <li>■ エゾイタヤ・シナノキ群集</li> <li>■ エゾイタヤ・ケヤキ群集</li> <li>■ カシの群落 (IV)</li> <li>■ イヌシデ・アカシデ群落</li> <li>■ ウラジロミミ群落</li> <li>■ ウロベエ・キタゴウ群落</li> <li>■ アカミノ・スツグ・クロベ群落</li> <li>■ ヒノキ群落</li> <li>■ アカマツ群落 (IV)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ジュウモンジシダ・サワグルミ群落</li> <li>■ チャボガヤ・ケヤキ群落</li> <li>■ ハンノキ・ヤチダモ群落</li> <li>■ ヤナギ高木群落 (IV)</li> <li>■ オオバヤナギ・ドノキ群落</li> <li>■ ヤナギ低木群落 (IV)</li> <li>■ ヤマハノキ群落</li> <li>■ ウラジロヨウラク・ミヤマナラ群集</li> <li>■ なだれ地自然低木群落</li> <li>■ ヒメヤシ・ブナ・シタ・コナラ群落</li> <li>■ 自然草原</li> <li>■ チシマザサ群落 (IV)</li> <li>■ オオヨモギ・オオイトドリ群集</li> <li>■ オオノロモシ・ミズナラ群落</li> <li>■ ブナ二次林</li> <li>■ ウダカンバ群落</li> <li>■ オクチョウジ・ザラ・コナラ群落</li> <li>■ ユキグニミツバツツジ・コナラ群落</li> <li>■ クマシデ群落</li> <li>■ シラカンバ群落</li> <li>■ オニグルミ群落 (V)</li> <li>■ アカマツ群落 (V)</li> <li>■ 落葉広葉低木群落</li> <li>■ ササ群落 (V)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ススキ群落 (V)</li> <li>■ 伏採跡地群落 (V)</li> <li>■ アカガシ群落</li> <li>■ ヒメオキ・ウラジロガシ群落</li> <li>■ ヤブコウゾウ・スタジイ群落</li> <li>■ ケヤキ群落 (VI)</li> <li>■ ハンノキ群落 (VI)</li> <li>■ ヤナギ高木群落 (VI)</li> <li>■ ヤナギ低木群落 (VI)</li> <li>■ ドクツギ・アキグミ群落</li> <li>■ ユキグニミツバツツジ・アカマツ群落</li> <li>■ ヤダケ群落</li> <li>■ 低木群落</li> <li>■ ススキ群落 (VII)</li> <li>■ 伏採跡地群落 (VII)</li> <li>■ ツルコケモロ・ミスゴケクラス</li> <li>■ ヌマガヤ・オーダー</li> <li>■ ヨシクラス</li> <li>■ ツルヨシ群落</li> <li>■ オギ群落</li> <li>■ カワハ・ハコ・ヨモギ群落</li> <li>■ ヒルムシロクラス</li> <li>■ サツキ群落</li> <li>■ 砂丘植生</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ スギ・ヒノキ・サウラ榎林</li> <li>■ アカマツ榎林</li> <li>■ ウロマツ榎林</li> <li>■ カラマツ榎林</li> <li>■ ニセアカシア群落</li> <li>■ その他榎林</li> <li>■ 竹林</li> <li>■ モウソウチク林</li> <li>■ ゴルフ場・芝地</li> <li>■ 牧草地</li> <li>■ 路傍・空地雑草群落</li> <li>■ 放棄畑雑草群落</li> <li>■ 栗園</li> <li>■ 畑雑草群落</li> <li>■ 水田雑草群落</li> <li>■ 放棄水田雑草群落</li> <li>■ 市街地</li> <li>■ 緑の多い住宅地</li> <li>■ 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等</li> <li>■ 工場地帯</li> <li>■ 造成地</li> <li>■ 開放水域</li> <li>■ 自然湿地</li> <li>■ 残存・植栽樹群地</li> </ul> |
|---|---|---|---|

図 植生図

## 2 社会的状況

### (1) 市域の変遷

本市は明治22年(1889)の市制・町村制施行により、近世富山城下町を引き継ぐ富山町とその周辺の村々が合併して誕生した県都です。このとき現在の市域にあたる範囲には、富山市のほか、全部で1市7町56村が存在していました。このうち、婦負郡山田村及び細入村は明治22年から富山市と合併する平成17年(2005)までの間、村域に変更はありませんでした。

明治から昭和期にかけて、いくたびもの合併が行われ、昭和41年(1966)には富山市、上新川郡大沢野町・大山町、婦負郡八尾町・婦中町・山田村・細入村の7市町村となりました。

平成17年4月1日にこの7市町村が合併し、現在の富山市が誕生しました。

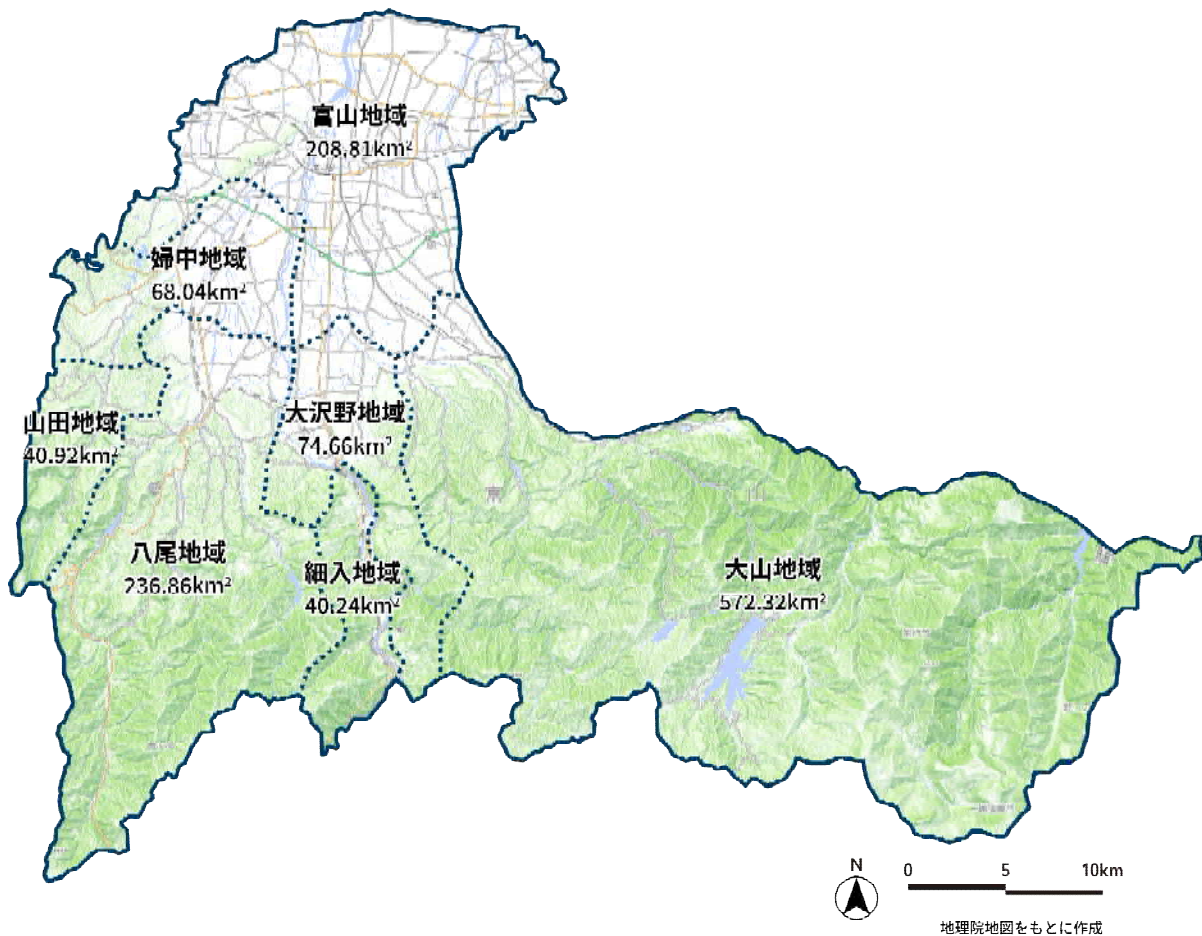


図 現在の富山市と地域別面積

## (2) 人口推移・世帯数推移

令和 8 年（2026）8 月の本市の総人口は、●●●，●●●人です。

昭和 25 年（1950）に、合併前の旧 7 市町村の人口は 30 万人を超え、昭和 60 年（1985）年には人口 40 万人を突破しています。その後緩やかな増加傾向を経て、横ばいとなり、平成 27 年（2015）から、国勢調査ベースでは減少に転じています。富山市将来人口推計（令和 2 年（2020）1 月）では、令和 47 年（2065）には約 311,000 人まで減少すると予想されています。

年齢別人口では、総人口に占める年少人口（0～14 歳）及び生産年齢人口（15～64 歳）の割合の低下が進む一方で、平均寿命の伸びなどにより高齢者人口（65 歳以上）の割合が大きくなり、高齢化が一段と進むものと予想されます。

【人口の推移と見通し】

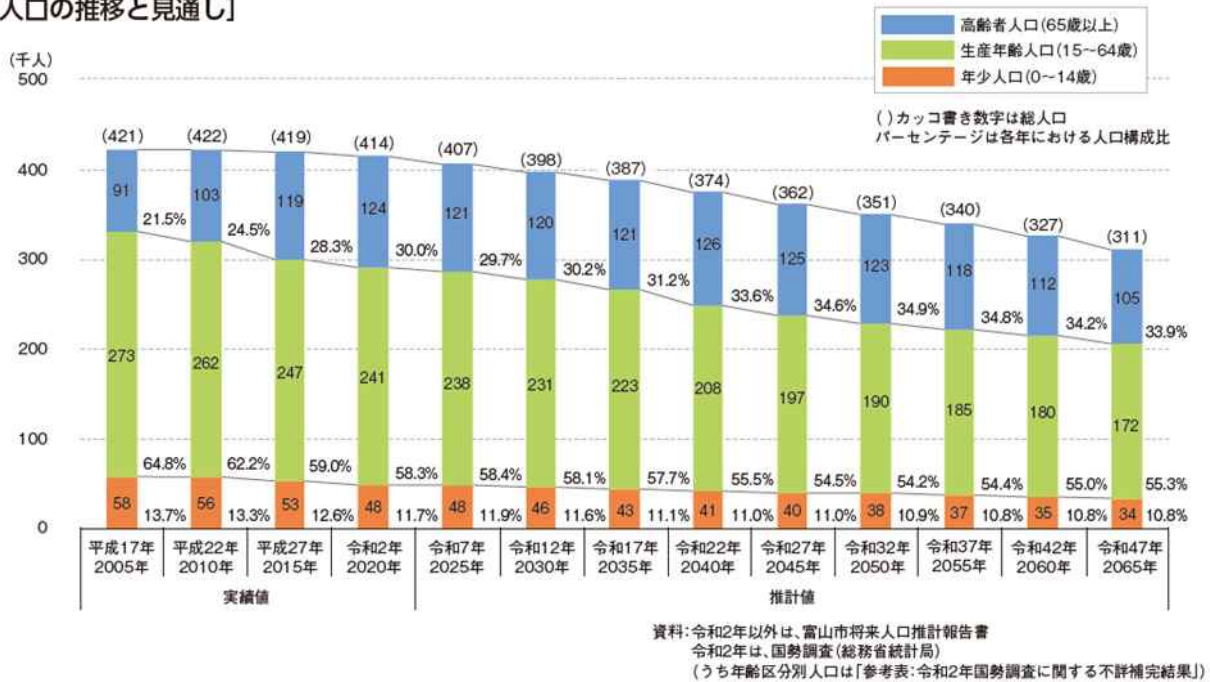


図 人口の推移と見通し

(出典：「第 2 次富山市総合計画 後期基本計画 2022-2026」(令和 4 年))

過去 50 年間（昭和 45 年～令和 2 年（1970～2020））における地域別の人口をみると、富山地域及び大沢野地域は平成 12 年（2000）まで増加傾向にあり、その後減少に転じています。大山・八尾・山田・細入地域はほぼ一貫して減少傾向にあり、特に山田・細入地域では著しい人口減少がみられます。一方婦中地域は増加傾向が続いており、これは富山地域のベッドタウン化や大型ショッピングセンターの進出を要因とした人口増加と考えられます。

総世帯数は一貫して増加傾向にあり、令和 2 年（2020）には 171,917 世帯となっています。一方、一世帯当たりの平均人員（総人口/総世帯数）は減少しつづけています。今後、単独世帯の増加、特に高齢者の単独世帯が増えることが予想されます。

単位：人、指数は昭和45年時点を100とする

	昭和45年 (1970)	指数	昭和55年 (1980)	指数	平成2年 (1990)	指数	平成12年 (2000)	指数	平成22年 (2010)	指数	令和2年 (2020)	指数
全域	350,085	100	391,554	112	408,942	117	420,804	120	421,953	121	413,938	118
富山地域	269,276	100	305,055	113	321,254	119	325,700	121	324,372	120	321,666	119
大沢野地域	18,207	100	19,689	108	20,805	114	22,642	124	22,244	122	21,000	115
大山地域	11,804	100	12,656	107	11,064	94	11,652	99	11,034	93	9,321	79
八尾地域	23,032	100	22,829	99	22,440	97	22,322	97	21,018	91	18,673	81
婦中地域	22,788	100	26,458	116	28,667	126	34,528	152	39,973	175	40,803	179
山田地域	2,302	100	2,188	95	2,279	99	2,037	88	1,789	78	1,297	56
細入地域	2,676	100	2,679	100	2,433	91	1,923	72	1,523	57	1,178	44

表 過去50年間の地域別人口及び指数（昭和45～令和2年（1970～2020））  
（国勢調査より作成）

【世帯数の推移と見通し】

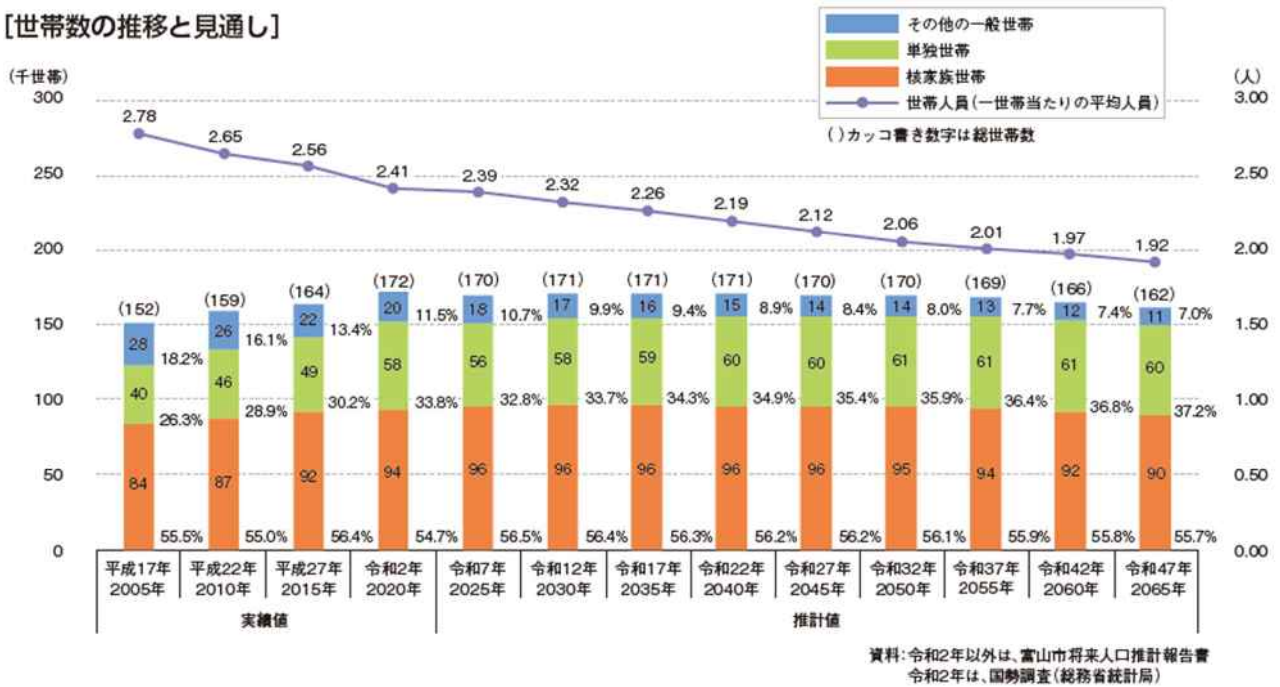


図 世帯数の推移と見通し  
（出典：「第2次富山市総合計画 後期基本計画 2022-2026」（令和4年））

### (3) 交通機関

本市は、関東、関西及び中京圏からほぼ等距離にあり、北陸新幹線、あいの風とやま鉄道線、北陸自動車道、国道 8 号が東西幹線として、JR 高山本線、国道 41 号線が南北幹線として整備されており、広域交通の結節点となっているほか、富山港、富山きときと空港も所在し、交通の要衝地となっています（第 1 章第 1 節（1）の図参照）。

また、本市では、鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化などの都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを目指しています。

鉄軌道は、北陸新幹線をはじめ、県外につながる鉄道網を形成する JR 高山本線、あいの風とやま鉄道線と、地域内をネットワークする富山地方鉄道鉄道線及び軌道線(路面電車)の大きく 2 つに分類され、富山駅を中心に放射状の鉄軌道ネットワークを形成しています。

路線バスは富山地方鉄道の路線バスが富山市中心部から放射状にネットワークを形成しており、郊外から中心部の商業施設などへ直接アクセスできる利便性を確保しています。



図 富山市内の鉄軌道  
(令和 5 年度 (2023))

(出典：「富山市総合交通計画」(令和 6 年))

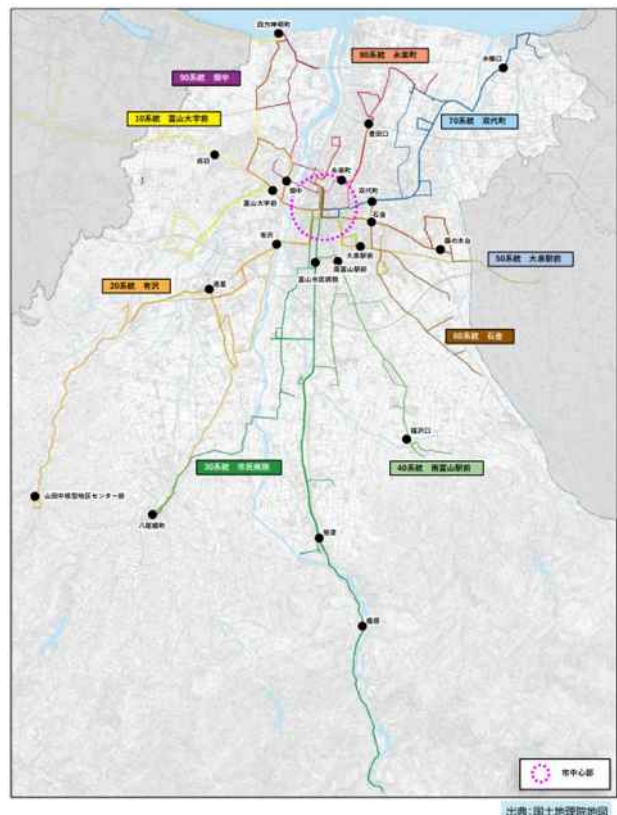


図 富山市内の路線バスネットワーク  
(令和 5 年度 (2023))

(出典：「富山市総合交通計画」(令和 6 年))

#### (4) 土地利用・自然的景観

本市には、北に豊富な魚介類を育む富山湾、東には雄大な立山連峰、西には丘陵・山村地帯が連なり、南には豊かな田園風景や森林が広がり、平野部の中心部には、近世富山城下町を歴史的背景にもつ市街地が形成されています。

また、山田、八尾、細入地域の山あいでは、斜面を利用した美しい棚田景観が見られるほか、呉羽丘陵の西側斜面一体には梨畑が広がり、白い梨の花があたり一面を彩ります。

本市南部の大部分を占める森林部には、中部山岳国立公園や有峰県立自然公園、白木水無県立公園などがあり、豊かな自然環境が保全されています。

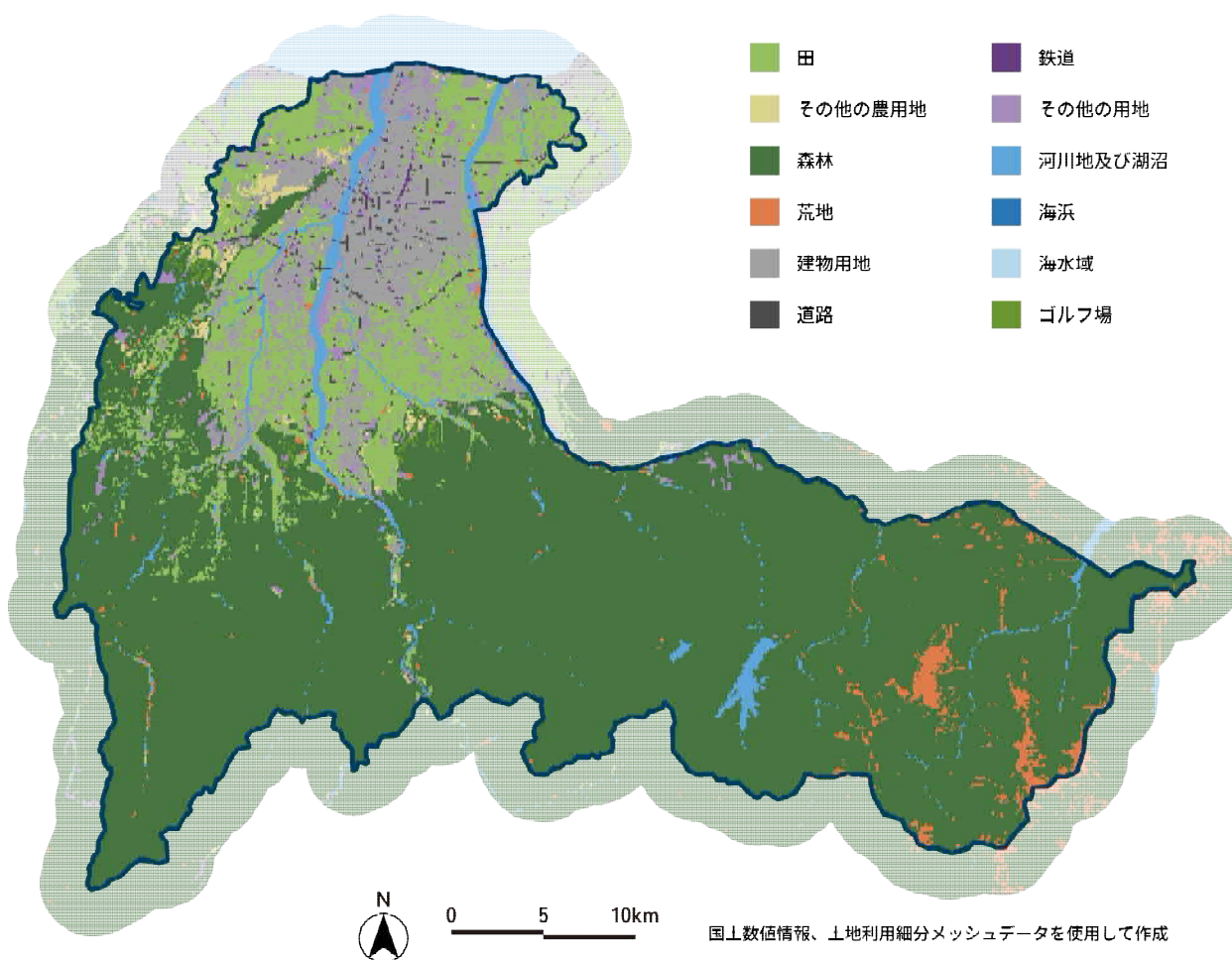


図 土地利用図

## (5) 産業

本市の本市産業別就業者数は、北陸4都市のなかでも製造業の割合が高く、本市が「ものづくりのまち」であることがわかります。

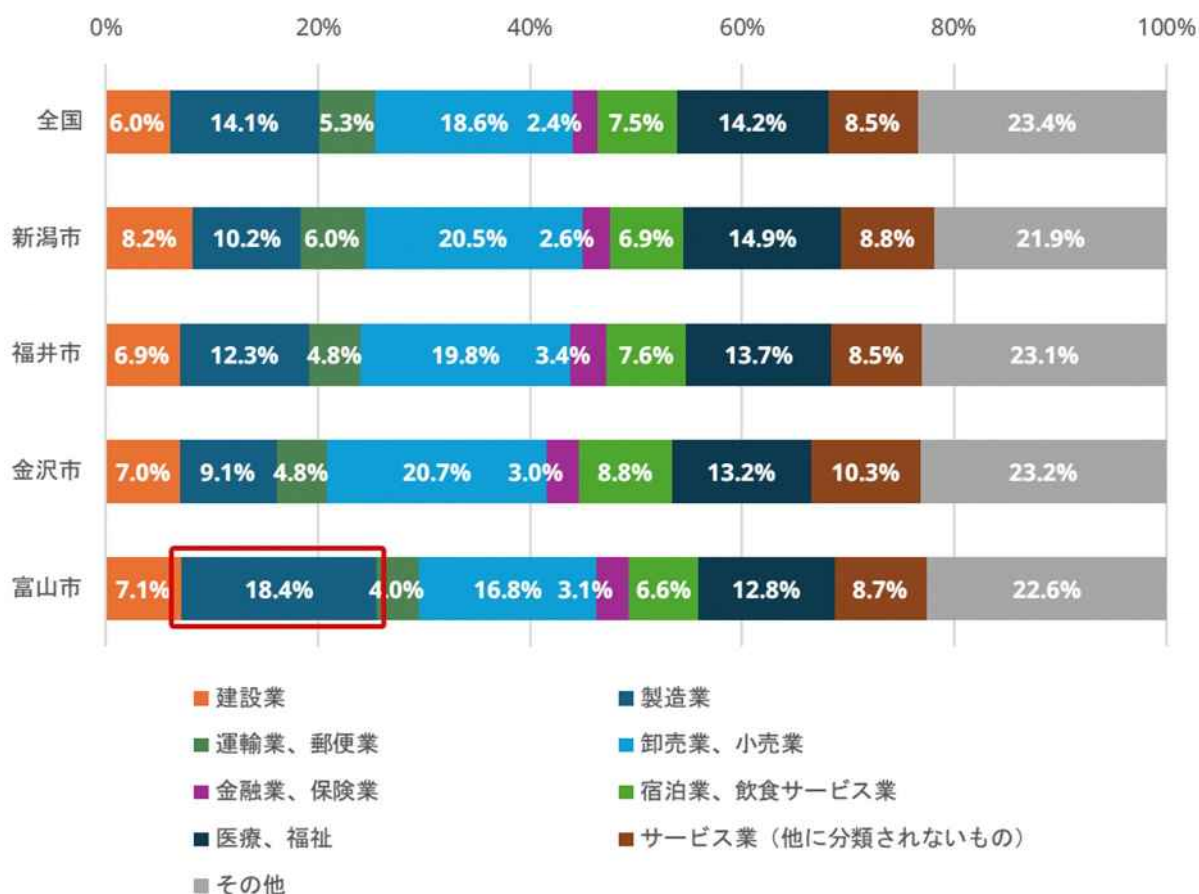


図 北陸4都市の産業大分類別従事者数比較図（令和3年（2021））

（令和3年経済センサス - 活動調査結果より作成）

### ① 製造業

令和2年（2020）本市製造品出荷額等は1兆3,830億円で、化学工業・機械器具製造業・電子部品製造業を本市の基幹産業として位置付けることができます。特に、化学工業のうち医薬品製剤製造業は2,722億円で全製造品出荷額の約2割を占めています。また、医薬品の容器製造やパッケージ印刷業など薬業に関連する製造業も盛んで、江戸時代から続く薬業を中心に本市の産業は発展してきました。



図 産業中分類別 製造品出荷額等（令和 2 年（2020））

（2020 年工業統計調査より作成）

※「製造品出荷額等」には出荷額のほか加工賃収入額等が含まれる

## ② 農業・漁業

農業は、令和 2 年（2020）の総農家数が 4,962 戸と、5 年前に比べ 1,608 戸減少しています。また、経営耕地面積は 10,477ha で、農家数と同じく 5 年前に比べ、425ha 減少しています。地目別には田 9,995ha(95.4%)、畑 329ha(3.1%)、樹園地 153ha(1.5%)となっており、稲作の占める割合が非常に高いことも本市農業の大きな特徴の一つです。

令和 3 年（2021）の農業産出額（推計）は 109 億 8,000 万円で、占める割合は高い順に米 67.4%、野菜 12.7%、果実 7.5%、畜産 7.5%となっています。

本市の主要な野菜には白ネギ、トマト、ニンジン、カブ、大カブなどがあり、このうち本市音川地区でとれる大カブは、「大かぶ漬」として商品化されています。また果樹では、呉羽地区で生産される日本なしが本市の特産品となっています。

水橋・岩瀬・四方といった沿岸地域での漁獲物をみると、ホタルイカ、シロエビ、サバ、イワシ類、アジなどが多く獲れます。

内水面の漁業については、神通川のアユ・マス・サケが、戦前には皇室の「御猟場」に指定されるほど豊富に獲れていました。現在マス・サケの漁獲量は大変少なくなっていますが、神通川の恵みによって誕生した「ますずし」が現在富山の代表的な名産品となっています。

### ③ 観光

本市には、豊かな自然、地域で育まれた文化、地域の歴史を物語る景観や施設、美しい都市空間、工場見学などの産業観光施設など、多様な観光地・観光施設が点在しています。また、全国的な知名度を誇り、多くの観光客が訪れる八尾地域の伝統行事「おわら風の盆」や、戦災復興を記念して始まり、現在は外国人観光客にも人気が高い「全日本チンドンコンクール」など、歴史ある祭り・イベントも多く開催されています。

本市の中心市街地には、宿泊施設やコンベンション施設、美術館や博物館等の文化施設が集積し、それらを結ぶ交通手段として路面電車が運行されていることから、観光客やビジネス客等の利便性が高いことも大きな特徴の一つです。

その中でも「ガラスの街とやま」を目指したまちづくりの集大成として平成27年(2015)に開館した「富山市ガラス美術館」が入るTOYAMAキラリ内での公益施設来館者数は、開館1年で来場者が約75万人を超え、本市の芸術文化と中心市街地の魅力創出の拠点となっています。

近年の観光客の入込状況については、「令和5年富山県観光客入込数等」(富山県地方創生局観光振興室、(公社)とやま観光推進機構)によれば、県内観光地・観光施設で入込数が最も多かったのは、本市にある富岩運河環水公園でした。イベント・祭りでは、本市の「山王まつり」「富山まつり」「おわら風の盆」「とやまスノーピアード」「全日本チンドンコンクール」が入込数10位内に入っています。

本市の令和5年(2023)の観光客入込数は5,892千人と前年の5,058千人より16.5%の増となっています。令和2年(2020)以降の新型コロナウイルス感染症拡大の影響による大幅な減少から回復の傾向にありますが、令和元年の入込数7,080千人の8割程度となっています。

## (6) 文化関連施設

本市にある文化関連施設には、資料の収集保存・調査研究・展示普及等を行う博物館・美術館・資料館（以下、「博物館等施設」）、資料の収集保存や閲覧業務等を行う図書館・公文書館、文化財建造物や遺跡を公開する文化財施設の3つに分けることができます。

### ① 博物館等施設

本市が所管する博物館等施設には、まず歴史系の博物館として、富山城の歴史をはじめ、市内の歴史資料の収集・調査・展示を行う富山市郷土博物館（建物は国登録有形文化財）や、大山地域の歴史・民俗資料の収集・調査・展示を行う富山市大山歴史民俗資料館、越中と飛騨を結ぶ飛騨西街道に設けられた西猪谷関所にまつわる歴史を紹介する富山市猪谷関所館があります。また、富山市民俗民芸村では重要有形民俗文化財である富山の売薬用具を保存・展示する売薬資料館のほか、民俗・考古・美術（民芸）に関する博物館等施設が集まっています。これらのうち、民芸館、民芸合掌館、民俗資料館、陶芸館（建物は国登録有形文化財）、売薬資料館別館（旧密田家土蔵）、茶室円山庵は市内外の古民家等を移築し活用しています。民俗民芸村内のとやま土人形工房では富山の伝統的郷土玩具であるとやま土人形の販売・絵付け体験を行っています。また、八尾地域には今に続く祭礼行事を紹介する、富山市八尾曳山展示館と富山市八尾おわら資料館があります。

自然科学系の博物館としては、富山市科学博物館があり、恐竜の足跡化石や富山の自然の特徴を紹介するほか、プラネタリウムも設置しています。また、富山市ファミリーパークでは、郷土の動物を中心に生態展示を行っています。

美術系の施設には、「ガラスの街とやま」を目指した本市まちづくりの集大成として開館した富山市ガラス美術館、東洋の古美術を展示する富山市佐藤記念美術館、本市出身の画家篁牛人の画業を紹介する富山市篁牛人記念美術館があります。

また、本市は県庁所在地であることから、県立の博物館・美術館・資料館が点在するほか、重要文化財を収集・展示する私立美術館も市街地にあります。

### ② 図書館・公文書館等

富山市立図書館では、本市の歴史資料の保存・閲覧業務を行っており、一部の古地図・貴重資料などはデジタル化し、インターネットで公開しています。また、富山市公文書館は本市の歴史的公文書とともに、旧市町村史編さん時収集資料の保存・閲覧業務を行っています。富山県立図書館および富山県公文書館では、県内の歴史資料の保存・閲覧業務等を実施しています。

そのほか、富山市埋蔵文化財センターでは、埋蔵文化財の発掘調査、史跡の保存活用、遺跡や出土品の公開・普及活動を行っています。

### ③ 文化財施設

市内で公開されている文化財建造物には、本市が所有する重要文化財浮田家住宅、同旧森家住宅、国登録有形文化財旧馬場家住宅、富山県が所有する重要文化財富岩運河水閘施設、国登録有形文化財旧内山家住宅、同旧金岡家住宅などがあります。

また、遺跡を復元・紹介する施設として、富山市北代縄文広場（国指定史跡北代遺跡）、富山市婦中安田城跡歴史の広場（国指定史跡安田城跡）があります。

上記以外にも、文化財建造物を活用したり、指定文化財を常設展示したりする博物館等施設があります（上記①参照）。

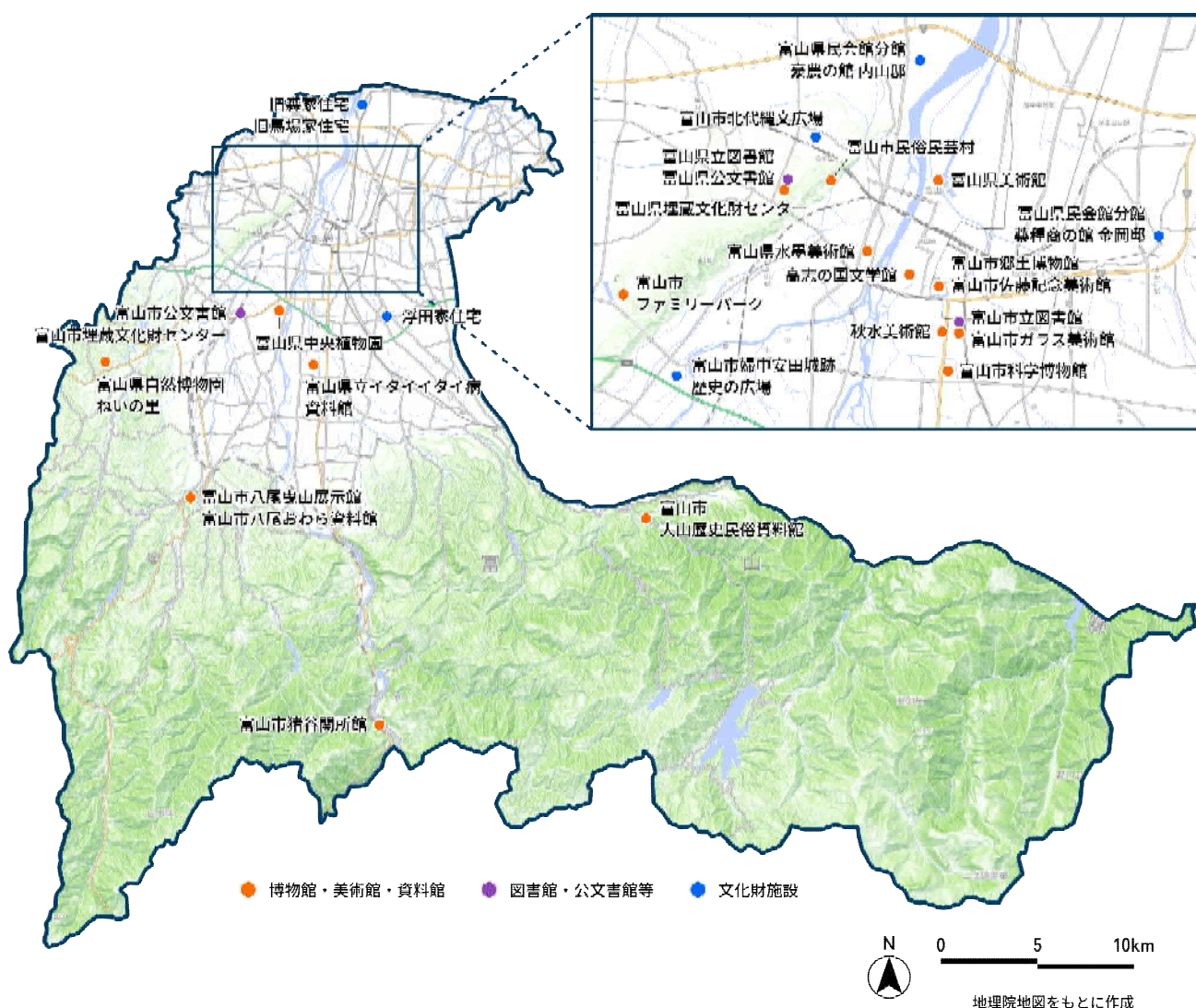


図 文化関連施設

この節は、別章の歴史文化の特性や関連文化財群の設定にあわせて書き換えの予定です。

### 3 歴史的背景

#### (1) 旧石器・縄文時代

市内の旧石器時代の遺跡は、神通川中流域の船嶺台地、西部の呉羽丘陵・射水丘陵周辺で多く確認されています。最も古いのは船嶺台地にある約 25,000～30,000 年前の直坂遺跡（国指定史跡）です。出土した幅広い時期の石器群は、富山県の旧石器編年研究の端緒となり、また、当時の製作技術を復元できる重要資料として、県の有形文化財（考古資料）に指定されています。富山県は、日本列島の東西文化の接点であったため、両地域の石器が混在し、富山市内でも、野沢遺跡で東日本の東山系石器群、直坂Ⅱ遺跡で西日本の国府系石器群というように異なる系統の石器が出土しています。



直坂遺跡の石器接合状況

縄文時代前期は、海進によって現在の平野の奥深くまで潟が広がりました。市北西部に形成された放生津潟の縁辺には、ヤマトシジミを主体とした小竹貝塚・蜆ヶ森貝塚が営まれました。小竹貝塚は日本海側最大級の貝塚で、これまで 100 体におよぶ人骨や埋葬犬を含む、膨大な量の遺物が出土しています。蜆ヶ森貝塚の土器は「蜆ヶ森式」として、北陸の縄文前期の基準資料となっています。



復元された北代縄文広場

縄文時代中期は、遺跡数が大幅に増え、縄文文化のピークを迎えます。台地や丘陵にはそれまでにない大規模な集落が作られました。北代遺跡（国指定史跡）、東黒牧上野遺跡（県指定史跡）、開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡はその代表的な遺跡で、中央の広場を竪穴建物が取り囲む環状の集落構造を呈するのが特徴です。

後期から晩期は、気候の寒冷化によって海退が進み、低地部に集落が広がりました。中期にみられたような大規模な集落はなくなり、小規模な集落が散在するようになります。また、御物石器・石冠・巨大な石棒など祭祀や呪術用とみられる道具が多く作られました。水橋地区出土と伝わる遮光器土偶（市指定）もこの時期のものともみられます。

#### (2) 弥生・古墳時代

弥生時代前期・中期は散発的に遺構・遺物が確認される程度ですが、中期の豊田遺跡では稲作を示す石包丁が出土しています。同じ中期の千石町遺跡では方形周溝墓群が確認されており、有力者集団の存在がうかがえます。

後期から終末期になると、集落・墳墓とも急増します。中国の史書に書かれた「倭国大乱」の時期に相当し、呉羽丘陵の白鳥城跡や羽根丘陵の富崎赤坂遺跡、離山砦遺跡といった高地性集落は、当時の全国的な集団間の緊張状態を反映している可能性があります。この頃には鉄器も流通し、他地域からもたらされただけでなく、海岸部に近い打出遺跡では始原的な鍛冶による鉄器づくりも行われました。

羽根丘陵の王塚・千坊山遺跡群（国指定跡）や呉羽丘陵の杉谷古墳群・百塚古墳群では、四隅突出型墳丘墓や前方後円墳、前方後方墳、円墳、方墳など多様な墳墓が築られました。四隅突出型墳丘墓は山陰地方で発生・盛行した墓で、日本海ルートによる交流を物語る特徴的な墳墓です。また、出土土器の一部には、東海・山陰・近畿などの影響がみられます。これら墳墓は、全国各地と交流しながら、地域社会において首長が誕生し、政治的にまとまっていく過程を示しています。

丘陵上に多くの古墳が築かれた古墳時代前期までとは一転し、中期は、東部の平野に若王子塚古墳、宮塚古墳といった大型円墳が首長墓として築造されます。後期～終末期になると再び丘陵上に、横穴式石室を持つ小型円墳や横穴墓が群集して築られました。これらは有力家族層の墓とみられ、呉羽山古墳群や番神山横穴墓群、金屋陣の穴横穴墓群などがあります。



四隅突出型墳丘墓  
(六冶古塚墳墓(王塚・千坊山遺跡群))  
※白線は墳丘の復元ライン



県内最古かつ第2位の規模を誇る前方後方墳・勅使塚古墳(王塚・千坊山遺跡群)



杉谷南遺跡の出土遺物

### (3) 古代 (奈良・平安時代)

天平宝治元年(757)、越中国は射水郡、砺波郡、婦負郡、新川郡の4郡となり、現在の県域とほぼ同じになりました。現在の富山市は、このうち婦負郡の全域と射水郡・新川郡の一部にあたります。律令体制のもと、官衙と呼ばれる役所施設が各地に造られ、市内でもその一部が見つかっています。米田大覚遺跡は、新川郡の役所「新川郡家」に比定され、庇付建物を含む30棟以上の掘立柱建物群、200点以上に及ぶ墨書土器、石製帯飾り、風字硯などが出土しています。近隣にある豊田大塚・中吉原遺跡は、人面墨書土器や斎串、人形といっ

た祭祀遺物が多数出土し、新川郡家の祭祀場とみられています。常願寺川河口近くの水橋荒町・辻ヶ堂遺跡では、規格的に配置された 80 棟以上の掘立柱建物群が発掘され、『延喜式』に記された古代北陸道の越中国八駅の一つ、「水橋駅」と推定されています。

神通川中流域両岸の扇状地では大規模集落群が確認されており、右岸域に任海宮田遺跡、吉倉B遺跡、友杉遺跡、左岸域に中名I遺跡、中名V遺跡などがあります。

呉羽丘陵とその南に連なる射水丘陵周辺は、恵まれた自然環境や地形を活かして、生産活動が活発に行われました。金草第一古窯跡（県指定史跡）や古沢窯跡群などでは須恵器の生産、栃谷南遺跡（市指定史跡）では瓦・須恵器の生産、池多南遺跡や北押川B遺跡などでは製鉄が行われました。栃谷南遺跡からは仏教関連遺物も出土しており、仏教文化の浸透を物語っています。

また、8世紀中頃には万葉歌人として有名な大伴家持が越中国司として赴任します。詠んだ和歌には、「鵜坂」、「売比（婦負）」、「伊波世（岩瀬）」といった現在も残る富山市の地名が出てきます。

婦負地方の呉羽山丘陵東麓から山田川沿いの地域にかけては平安仏教伝来より以前の縁起を伝える寺院をはじめ、古い開基の寺院が分布しており、そのうち婦中町千里の常楽寺には、平安初期に制作されたと考えられる木造十一面観音立像及び木造聖観音立像（ともに重要文化財）が安置されています。

## （以下、項目のみ）

### （4）中世

- ・太田保の開発
- ・越中守護桃井直常
- ・越中国人・戦国武将（上杉・武田・織田）・一向一揆衆の争い
- ・富山城の変遷

### （5）近世

- ・利長によるまちづくり
- ・富山藩の誕生
- ・町人たちの活躍—売薬業・蚕種業・製紙業・廻船業—
- ・加賀藩・富山藩の村支配—十村制・奥山廻制—
- ・用水・新田開発
- ・川と山がもたらした恵み—漁業・流通・「越中七かね山」—
- ・安政5年の飛越地震と「鳶崩れ」

### （6）近現代

- ・富山県と富山市の誕生
- ・神通川の河川改修と都市計画事業

- ・常願寺川改修工事と砂防工事
- ・川の水を利用した水力発電事業
- ・米騒動
- ・富山大空襲と戦災復興
- ・イタイイタイ病

## 指定等文化財の概要（第2章関連）

### 1 類型別件数（令和7年（2025）2月末現在）

文化財保護法・富山県文化財保護条例・富山市文化財保護条例に基づき、指定・登録が行われた文化財は、下記表のとおり、全部で264件あります。

なお、表のほか、国が選択する記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財及び国が選定する文化財の保存技術は市内にありません。

類 型		指定等			登録		計	
		国	県	市	国	県		
有形文化財	建造物	4	0	6	37	-	47	
	美術工芸品	絵画	2	6	17	0	-	25
		彫刻	2	13	28	0	-	43
		工芸品	6	10	23	0	-	39
		書跡・典籍・古文書	1	2	24	0	-	27
		考古資料	2	4	1	1	-	8
		歴史資料	0	0	1	0	-	1
無形文化財	0	0	0	0	0	0		
民俗文化財	有形の民俗文化財	1	1	2	0	-	4	
	無形の民俗文化財	1	0	5	0	1	7	
記念物	遺跡（史跡）	4	3	17	0	-	24	
	名勝地（名勝）	0	0	0	0	-	0	
	動物・植物・地質鉱物 （天然記念物）	植物	0	8	23	0	-	31
		地質鉱物	5	1	2	0	-	8
文化的景観	0	-	-	-	-	0		
伝統的建造物群	0	-	-	-	-	0		
合計		28	48	149	38	1	264	

※1 上記文化財のほか、本市に関係するものとして、ホタルイカ群遊海面（常願寺川河口右岸より旧魚津町に至る海岸朔望満潮線より700間以内の海面）、ライチョウ（地域定めず）、カモシカ（地域定めず）が国の特別天然記念物となっている。

※2 表中、「0」と記載されているものは、該当する文化財が0件のもの、「-」は制度がないもの。

表 類型別指定等文化財件数

### 2 地域別件数

指定等文化財を地域（旧市町村）別で分類すると下記表のとおりです。このうち、富山地域の指定等文化財のなかには、富山県埋蔵文化財センターが管理する他市町村で発掘された考古資料など、本市ゆかりのものでないものも含まれています。また、国登録有形文化財のうち、建造物については1棟ごとに登録されています。

市指定文化財については、平成17年（2005）合併前の旧市町村時代に指定されたものが多く、指定の件数や類型別の割合にばらつきがみられます。これは指定の基準や方針が異なっていたためと考えられます。

指定・登録別	富山	大沢野	大山	八尾	婦中	山田	細入	計
国指定	15	1	4	1	5	0	2	28
県指定	23	4	10	6	3	1	1	48
市指定	24	8	14	57	9	15	22	149
国登録	34	1	3	0	0	0	0	38
県登録	0	0	0	0	0	0	1	1
計	96	14	31	64	17	16	26	264

表 地域別・指定登録別指定等文化財件数

類 型		富山	大沢野	大山	八尾	婦中	山田	細入	計	
有形文化財	建造物	38	2	5	0	0	2	0	47	
	美術工芸品	絵画	11	1	3	5	1	1	3	25
		彫刻	8	1	7	10	7	2	8	43
		工芸品	16	0	3	16	2	0	2	39
		書跡・典籍・古文書	4	1	0	16	1	0	5	27
		考古資料	7	1	0	0	0	0	0	8
		歴史資料	0	0	0	0	1	0	0	1
民俗文化財	有形の民俗文化財	1	1	1	1	0	0	0	4	
	無形の民俗文化財	2	2	0	1	1	0	1	7	
記念物	遺跡（史跡）	4	1	5	5	3	1	5	24	
	動物・植物・地質鉱物 （天然記念物）	植物	5	4	4	8	0	10	0	31
		地質鉱物	0	0	3	2	1	0	2	8
合計		96	14	31	64	17	16	26	264	

表 地域別・類型別指定等文化財件数

## 未指定文化財の件数(第2章関連)

令和7年2月末現在

類型		例示	富山	大沢野	大山	八尾	婦中	山田	細入	不明	合計	
有形文化財	建造物	〇〇氏住宅、旧密田家土蔵	273	34	43	57	31	12	14	14	478	
	美術 工芸品	絵画	富山藩領山方絵図絵巻、船絵馬	83	1	1	1	10	1	1	125	223
		彫刻	楊柳観音菩薩立像、円空仏	34	1	1	0	9	0	1	22	68
		工芸品	青貝香盆、立山雷鳥図(中島空堂)	14	0	1	2	1	0	0	97	115
		書跡・典籍	十代利保筆九重桜歌、前田正甫元旦試書き	5	0	0	1	0	0	0	193	199
		古文書	小見亀谷村共有文書、船橋原由之事	5	2	6	1	4	0	3	96	117
		考古資料	新開遺跡出土品、四方北窪遺跡遺物一式	592	88	85	85	152	16	25	0	1,016
		歴史資料	神通川船橋鐵鎖、越中国富山城絵図	57	0	3	9	50	0	2	556	677
無形文化財			0	0	0	0	0	0	0	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	生活用具、曳山等祭礼用具、生産用具	210	29	24	53	22	14	8	14	294	
	石造物	石塔、石仏、題目塔、道標	2,245	274	296	110	304	48	86	87	3,448	
	無形の民俗文化財	獅子舞、曳山囃子、天神信仰、ます鮎、報恩講料理	319	90	50	106	125	44	47	38	705	
記念物	遺跡	大久保発電所、須坂遺跡、足立塚	995	136	134	182	305	34	48	44	1,850	
	名勝地	神通峡、有峰の自然景観	14	2	2	3	1	1	2	1	25	
	動物・植物・地質鉱物	磯部提の桜、田尻池(オオハクチョウ飛来)	55	27	76	56	25	12	16	5	256	
文化的景観		山田の棚田、立山・黒部の景観、水橋地区の町並み	10	3	2	2	0	2	3	0	22	
その他 史話・伝承・方言		水神伝説六治古物語、椀貸し伝説	37	21	4	13	33	12	9	11	92	
合計			4,948	708	728	681	1,072	196	265	1,303	9,585	

※地域別の数字は重複もあるため、合計は一致しません。

## 既往の把握調査等（第4章関連）

## 【文化庁の調査報告書等】

No.	書名	編著者名	発行元	出版年
1	天然記念物緊急調査 第16巻 富山県	文化庁	文化庁	1973
2	近代遺跡調査報告書 エネルギー産業	文化庁文化財部記念物課	文化庁文化財部	2016
3	近代遺跡調査報告書 軽工業 第2分冊	文化庁文化財部記念物課	文化庁文化財部	2015
4	近代の庭園・公園等に関する調査研究報告書	近代の庭園・公園等の調査に関する検討会	文化庁文化財部記念物課	2012
5	採掘・製造、流通・往来及び居住に関連する文化的景観の保護に関する調査研究（報告）	採掘・製造、流通・往来及び居住に関連する文化的景観の保護に関する調査研究会		2010
6	平成28年度 伝統的生活文化実態調査事業報告書		文化庁文化財部伝統文化課	2017
7	農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究（報告）	農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する検討委員会	文化庁文化財部記念物課	2003
8	名勝に関する総合調査		文化庁文化財部記念物課	2013

## 【富山県の調査報告書等】

No.	書名	編著者	出版者	出版年
1	富山県の民謡	黒坂富治	北日本新聞社	1979
2	富山県の曳山	富山県教育委員会	富山県教育委員会	1976
3	富山県民俗分布図	富山県教育委員会	富山県教育委員会	1977
4	富山県の獅子舞	富山県教育委員会	富山県教育委員会	1979
5	富山県の民家（1970）	富山県教育委員会	富山県教育委員会	1970
6	富山県の民家（1980）	富山県教育委員会	富山県教育委員会	1980
7	富山県歴史の道調査報告書	富山県教育委員会	富山県教育委員会	1979-1981
8	富山県の近世社寺建築	富山県教育委員会	富山県教育委員会	1981
9	富山県民謡緊急調査報告書	富山県教育委員会	富山県教育委員会	1985
10	富山県の諸職	富山県教育委員会	富山県教育委員会	1989
11	富山県の民具	富山県教育委員会	富山県教育委員会	1992
12	富山県の民俗芸能	富山県教育委員会	富山県教育委員会	1992
13	富山県の近代和風建築	富山県教育委員会	富山県教育委員会	1994
14	富山県の近代化遺産	富山県教育委員会文化課	富山県教育委員会	1996
15	富山県の地質鉱物	富山県教育委員会文化課	富山県教育委員会	1996
16	富山県恐竜足跡化石調査報告書（増補版）		富山県恐竜足跡化石協議会	2000
17	富山県恐竜化石試掘調査報告書	富山県恐竜足跡化石調査団	富山県恐竜足跡化石調査団	2002
18	富山県の祭り・行事	富山県教育委員会文化財課	富山県教育委員会	2002
19	富山の土蔵	富山県教育委員会	富山県教育委員会	2003
20	遺跡が語る富山の歴史	富山県教育委員会	富山県教育委員会	1991
21	富山県中世城館遺跡総合調査報告書	富山県埋蔵文化財センター	富山県埋蔵文化財センター	2006
22	立山・黒部山岳遺跡調査報告書	富山県埋蔵文化財センター	富山県埋蔵文化財センター	2016
23	とやまの土蔵（とやま文化財百選シリーズ）	富山県教育委員会	富山県教育委員会	2005
24	とやまの獅子舞（とやま文化財百選シリーズ）	富山県教育委員会文化財課	富山県教育委員会文化財課	2006
25	とやまの祭り（とやま文化財百選シリーズ）	富山県教育委員会生涯学習・文化財室	富山県教育委員会生涯学習・文化財室	2007
26	とやまの年中行事（とやま文化財百選シリーズ）	富山県教育委員会生涯学習・文化財室	富山県教育委員会生涯学習・文化財室	2008
27	とやまのお城（とやま文化財百選シリーズ）	富山県教育委員会生涯学習・文化財室	富山県教育委員会生涯学習・文化財室	2009
28	とやまの歴史的まちなみ（とやま文化財百選シリーズ）	富山県教育委員会生涯学習・文化財室	富山県教育委員会生涯学習・文化財室	2011
29	とやまの名勝（とやま文化財百選シリーズ）	富山県教育委員会生涯学習・文化財室	富山県教育委員会生涯学習・文化財室	2012
30	富山県の築山・曳山・行燈行事	富山県の祭り・行事活性化マスタープラン策定委員会	富山県教育委員会文化財課	2005

31	富山県の獅子舞芸能と祭礼	富山県の獅子舞活性化マスタープラン研究委員会	富山県教育委員会文化財課	2006
32	富山県の祭礼行事	富山県の祭り活性化マスタープラン研究委員会	富山県教育委員会生涯学習・文化財室	2007
33	富山県の歳時	富山県の年中行事活性化マスタープラン研究委員会	富山県の年中行事活性化マスタープラン研究委員会	2008
34	越中万葉歌碑まっぴ	富山県教育委員会生涯学習・文化財室	富山県教育委員会生涯学習・文化財室	2010
35	とやまの曳山	とやまの文化遺産魅力発信事業実行委員会	とやまの文化遺産魅力発信事業実行委員会	2018
36	富山県方言収集緊急調査			

## 【富山市の自治体史・調査報告書等】

### ①富山市（旧富山市含む）

No.	書名	編著者	出版社	出版年
1	富山市史 第1巻～第5巻	富山市史編修委員会・富山市	富山市	1960-1980
2	富山市史 通史 上巻・下巻	富山市史編さん委員会	富山市	1987
3	富山市の文化財	富山市教育委員会	富山市教育委員会	1962
4	富山市の年中行事（富山市の文化財シリーズ）	富山市教育委員会	富山市教育委員会	1967
5	富山の「年中行事」・「人の一生」	民俗のグループ	富山市教育委員会	1972
6	富山市の民謡	黒坂富治	富山市教育委員会	1976
7	富山藩文化財資料集	富山市教育委員会	富山市教育委員会	1978
8	富山市の「文化財・史跡案内」	富山市教育委員会	富山市教育委員会	1988
9	富山のわらべうたとあそび	民俗のグループ	富山市教育委員会	1974
10	富山市石仏石塔等調査中間報告書 第1冊～第3冊	京田良志, 民俗サークル	富山市教育委員会	1976-1979
11	富山市石仏とところどころ	富山市教育委員会	富山市教育委員会	1985
12	富山市石仏・石塔等分布	富山市教育委員会	富山市教育委員会	1983
13	岩瀬の石仏	岩瀬校下「郷土を学ぶ教室」石仏調査グループ	富山市教育委員会	1990
14	富山市ふるさと歴史map	富山市教育委員会生涯学習課	富山市教育委員会生涯学習課	2016
15	富山市日本海文化研究所紀要 第3号 富山市内廻船問屋調査報告書	富山市日本海文化研究所	富山市日本海文化研究所	1989
16	富山市日本海文化研究所紀要 第5号 富山湾沿岸漁業民俗調査報告書	富山市日本海文化研究所	富山市日本海文化研究所	1992
17	富山市日本海文化研究所紀要 第7号 歴史的町並みの調査記録報告書	富山市日本海文化研究所	富山市日本海文化研究所	1994
18	富山市日本海文化研究所紀要 第8号 富山湾岸における越前式笠付墓標分布調査報告書	富山市日本海文化研究所	富山市日本海文化研究所	1995
19	富山市日本海文化研究所紀要 第9号 富山湾沿岸船絵馬調査報告書	富山市日本海文化研究所	富山市日本海文化研究所	1996
20	富山市日本海文化研究所紀要 第11号 草島道調査報告書	富山市日本海文化研究所	富山市日本海文化研究所	1998
21	水橋町郷土史 第1巻・第2巻	水橋町	水橋町	1966
22	埋蔵文化財包蔵地一覧			

### ②旧大沢野町

No.	書名	編著者	出版社	出版年
1	大沢野町誌 上巻・下巻	大沢野町誌編纂委員会	大沢野町	1958
2	大沢野町誌 現代	大沢野町	大沢野町	1986
3	大沢野町史	大沢野町史編さん委員会	大沢野町	2005
4	大沢野町史 資料編	大沢野町史編さん委員会	大沢野町	2005
5	みちばたの文化財	三木睦子	大沢野町	1986

### ③旧大山町

No.	書名	編著者	出版社	出版年
1	大山町史	大山町史編纂委員会	大山町	1964

2	大山の歴史	大山の歴史編集委員会	大山町	1990
3	大山の文化財めぐり	大山町教育委員会	大山町教育委員会	1990
4	大山町の石仏 第一集・第二集	大山町教育委員会	大山町教育委員会	1991 1993
5	ふるさと再発見 I	大山町自治振興会連合会ふるさと再発見I増改訂版編集委員会	大山町教育委員会	2003
6	ふるさと再発見 II	大山町自治振興会連合会昔在の村落及び郷土芸能保存会	昔在の村落及び郷土芸能保存会	1997
7	ふるさと再発見 III	ふるさと再発見パートIII編集と文化遺産等の発掘調査委員会	大山町	1999
8	ふるさと再発見 IV	ふるさと再発見パートIV編集と文化遺産等の発掘調査委員会	大山町	2001
9	ふるさと再発見 V	ふるさと再発見パートV編集と文化遺産等の発掘調査委員会	大山町	2002
10	ふるさと再発見 VI	大山町自治振興会連合会	大山町	2004

#### ④旧八尾町

No.	書名	編著者	出版社	出版年
1	八尾町史	八尾町史編集委員会	八尾町	1967
2	八尾町史 続	続八尾町史編集委員会	八尾町	1973
3	八尾の方言で語る伝承料理	八尾町	八尾町	1985
4	私たちが見出した八尾町に遺したい文化財候補者たち 平成7年(1995)	八尾町婦人ボランティア講座	八尾町教育委員会	1995

#### ⑤旧婦中町

No.	書名	編著者	出版社	出版年
1	婦中町史 上巻・下巻	婦中町史編集委員会	婦中町	1967 1968
2	婦中町史 通史編	婦中町史編集委員会	婦中町	1996
3	婦中町史 資料編	婦中町史編集委員会	婦中町	1997
4	ふるさとの文化遺産 上巻・下巻	婦中町婦人ボランティア講座(ふるさと愛護)	婦中町教育委員会	1990
5	婦中町文献綜合目録 一～三	婦中町史編集室	婦中町史編集委員会	1997
6	婦中町の文化財	婦中町教育委員会	婦中町教育委員会	2000
7	婦中町れきしのかおり	なかたに印刷	婦中町教育委員会	2005

#### ⑥旧山田村

No.	書名	編著者	出版社	出版年
1	山田村史 上巻・下巻	山田村史編集委員会	山田村	1984 1981
2	山田村史 現代編	山田村史編集委員会	富山市山田総合行政センター	2006
3	山田村郷土史	山田村教育委員会	山田村教育委員会	1996

#### ⑦旧細入村

No.	書名	編著者	出版社	出版年
1	細入村史 上巻 通史編	細入村史編集委員会	細入村	1987
2	細入村史 下巻 史料編	細入村史編集委員会	細入村	1989
3	細入村史 通史編(続編)	細入村史編集委員会	細入村	2005